

# 仁淀川地域アクションプラン 実行3年半の取り組みの総括 [個別]

## 【評価方法】

R5数値目標に対するR5年度末見込みまたは直近の実績の達成状況により  
5段階評価を実施

区分	数値目標に対する評価基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上 110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上 100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満

仁 淀 川 地 域 本 部

令和5年8月30日（水）

指標	評価の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満

【地域アクションプラン 総括シート】  
 <<仁淀川地域>>

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
1 仁淀川流域茶の生産体制の強化と販売促進  《いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村》  良質茶の主産地である仁淀川流域で、生産者の高齢化や担い手不足が進む中でも茶産地を維持できる仕組みの構築を図る。また、省力的な栽培管理と効率的な生産体制の整備を検討し、新たな茶商品の開発・販売を通じた仕上げ茶の販売量増加、輸出用防除暦に沿った茶の生産により、茶生産農家の所得の向上を図る。  【実施主体】 ・◎JA高知県（仁淀川地区） ・◎(株)霧山茶園 ・◎(農)池川茶業組合	農業	<生産体制の強化> ・台切り効果の検証（実証調査、収量・品質） ・台切りの啓発（個別巡回） ・台切りマニュアルの検討、作成（関係機関） ・台切りマニュアルを活用した推進（部会・個別指導） ・茶生産における省力化技術の導入と産地の強化  <販売力の向上> ・新商品の開発と新たな販売ルートの開拓 ・日干番茶製造試験（茶業試験場） ・(農)池川茶業組合におけるGAP確認活動の実施（R3、R4） ・輸出先国の基準に合わせた薬剤の防除効果確認（R3、R4）	<生産体制の強化> ・台切りの実証ほど台切り3年後の台切り区が一番茶収量が非台切り区の収量に比べて108%~136%になった。 ・台切りマニュアルを作成（R4） ・JA高知県佐川支所の茶製造ラインを使用した新商品のウーロン茶加工マニュアルを作成（R2） ・茶業試験場試：日干番茶試作で日干番茶らしい日向臭（ひなたしゅう）は4時間以上の強い日干処理で発生することが分かった。（R4）  <販売力の向上> ⇒仕上茶の販売額及び荒茶生産に占める小売の割合 H19：38,796千円、6.6% → H30：85,179千円、16.3% → R元：70,330千円、22.6% ・輸出先国の基準に合わせた防除暦の作成（R3、R4）	仕上茶販売量  <目標値（R5）> 30.0 t （年間）  <出発点（H30）> 28.4 t （年間）	<R5年度末見込> 26.0 t （年間）  <直近の実績> 25.4 t （年間） 【R4年度末】	B	[評価] ・生産体制の強化については良質茶の主産地である仁淀川流域で、生産者の高齢化や担い手不足が進む中でも茶産地を維持するため、担い手に優良園の流動化が行われてきた。そのなかで、高樹齢茶園の生産性の向上の一つとして、担い手がいる高樹齢茶園では台切りマニュアルによる台切りや、再生期間の短い中切りが取り組まれている。しかし、担い手の高齢化や担い手のいない茶園では、台切り等は行われず、栽培管理も簡素化になっている。 ・販売力の向上では、コロナの影響でウーロン茶製品の製造はストップしている。 ・輸向け防除暦を作成した。秋冬番茶の輸出原料に活用されている。 ・日干番茶はR6年度の製品化かが期待される。  [課題] ・担い手の確保 ・製品茶の販売拡大 ・二番茶・秋冬番茶を活用した日干番茶等の商品開発 ・輸出先国の基準に合わせた防除暦の更新 ・若い担い手がいる茶農家を中心に、台切りマニュアルを用いた台切りや中切りを推進	・茶農家の高齢化による作業労力不足への対応として、地域作り協力隊などによる茶+αの取組も含めた担い手の確保と、茶の技術や知識を持つ人材の育成 ・荒茶価格低迷の対応として、収益率の高い製品茶の販売強化や国内外への販路開拓 ・新品、中古品の機械の更新や購入の支援強化

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性	
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価		
<p>2 漢方薬の原料となる薬用作物の作付け拡大と生産性の向上による仁淀川流域産地の振興</p> <p>《仁淀川町、佐川町、越知町、日高村》</p> <p>大手製薬会社と契約栽培を行っているミシマサイコ・サンショウ・ダイダイなどの薬用作物について、越知町をはじめとする生産農家の所得の向上と就労の場の確保を図るため、漢方薬の需要増に対応した生産拡大と生産性の向上に取り組む。</p> <p>【実施主体】 ・(農)ヒューマンライフ土佐</p>	農業	<p>&lt;薬用作物の安定生産&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>休作者への作付け呼びかけ、新規栽培者の勧誘(関係機関との協議含む)(R1:3回)</li> <li>栽培管理資料・防除資料の配付(R2:3回、R3:3回、R4:1回、R5:1回)</li> <li>栽培講習会の開催(R2:2回、R3:1回、R4:1回、R5:1回)</li> <li>実証ほの設置 苗立ち本数確保対策実証ほ(R2:4カ所) 炭そ病防除薬剤実証ほ(R2:1カ所) 発芽改善実証ほ(R3:1カ所、R4:1カ所)</li> </ul> <p>&lt;(農)ヒューマンライフ土佐の体制強化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総会の開催、部門別生産者会の開催(R2:2回、R3:2回、R4:2回、R5:2回)</li> <li>乾燥機の導入 こうち農業確立確立総合支援事業非補助金(R3)</li> </ul> <p>※H28に乾燥機、H29にミシマサイコ自動莖切機を導入</p>	<p>&lt;薬用作物の安定生産&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年生栽培品種の適応性の検証により、1年生品種と同等の収量性が確認できた。</li> <li>低温処理による種子の発芽改善対策を始めた。</li> <li>調査を通じて、播種後の土壌の粉殻被覆や最終摘心時期を早めること、11月上旬までに種子を収穫することの有効性が実証できた。</li> </ul> <p>&lt;(農)ヒューマンライフ土佐の体制強化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>従来は製品の乾燥作業は県外の企業に委託していたが、乾燥機の導入により自社完結が可能となった。</li> </ul>	<p>ミシマサイコ栽培面積</p> <p>&lt;目標値(R5)&gt; 7.7ha (年間)</p> <p>&lt;出発点(R元)&gt; 5.7ha (年間)</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; 3.1ha (年間)</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 2.4ha (年間) 【R4年度末】</p>	D	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ミシマサイコは成分量が多いことから販売契約業者は2年栽培の製品を求めている。</li> <li>販売契約業者が種子前処理による発芽率の向上に取り組んでおり、買い取り価格を引き上げている。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>病害予防・追肥等栽培管理技術の向上</li> <li>2年生栽培品種は、発芽が安定せず、作付けする生産者の減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>種子の発芽技術について引き続き検討するとともに、休作者への作付け呼びかけを行う。</li> </ul>	
		<p>&lt;薬用作物の安定生産&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>収穫時の労働力確保に向けた協議(R3:3回)</li> <li>栽培管理資料・防除資料の配付(R2:11回、R4:1回、R5:1回)</li> <li>栽培講習会の開催(R2:2回、R3:1回、R4:3回、R5:1回)</li> <li>実証ほの設置 サンショウ緩効性肥料による礼肥効果の検討(R3:2カ所、R4:2カ所、R5:2カ所) 土壌分析の実施(R2:88点、R3:61点、R4:117点)</li> </ul> <p>&lt;(農)ヒューマンライフ土佐の体制強化(再掲)&gt;</p>	<p>&lt;薬用作物の安定生産&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土壌分析に基づく施肥設計や病害虫防除について、生産者の意識が高まっている。</li> <li>苗木の生産を年間2,000本を目標として開始した。</li> </ul> <p>&lt;(農)ヒューマンライフ土佐の体制強化(再掲)&gt;</p>	<p>サンショウ製品量</p> <p>&lt;目標値(R5)&gt; 40.0t (R2~5平均)</p> <p>&lt;出発点&gt; 37.2t (H30~R元平均)</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; 30.6t (R2~5平均)</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 23.6t (R2~4平均)</p>		C	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サンショウは収穫可能な樹齢が20年程度とされているが対象エリアでは樹齢が15年を超える圃場も多ことから、病害防除と適正な施肥による樹勢維持と、苗木の生産体制の確立を図った。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>栽培管理技術(さび病対策、追肥、剪定等)</li> <li>苗木生産技術の向上</li> <li>収穫労働力の確保</li> <li>担い手対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>改植の推進により今後の栽培面積の確保を図るとともに、収穫作業労働力の確保も検討する。</li> </ul>
		<p>&lt;薬用作物の安定生産&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>栽培管理資料・防除資料の配付(R2:1回、R3:1回、R5:1回)</li> <li>栽培講習会の開催(R2:2回、R3:1回、R4:1回)</li> </ul> <p>&lt;(農)ヒューマンライフ土佐の体制強化(再掲)&gt;</p>	<p>&lt;薬用作物の安定生産&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒栽培管理技術の周知によって栽培面積は増加している。</li> </ul> <p>&lt;(農)ヒューマンライフ土佐の体制強化(再掲)&gt;</p>	<p>ダイダイ製品量</p> <p>&lt;目標値(R5)&gt; 26.6t (年間)</p> <p>&lt;出発点(R1)&gt; 13.6t (年間)</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; 15.4t (年間)</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 13.9t (年間) 【R4年度末】</p>			D	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>栽培技術の周知や収穫物の受け入れ体制を整備することによって、栽培面積は増加している。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>栽培面積の拡大</li> <li>剪定、病害虫対策</li> </ul>

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性			
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価				
<p>3 日高まるごとブランド化</p> <p>《日高村》</p> <p>高精度トマト生産における販売戦略や地域ネットワーク、産地間競争力を強化し、生産者の所得向上につなげる。日高村アグリネットワークを活用した特産品等の開発・販売活動や「日高まるごとイタリアンプロジェクト」の推進により、日高村の知名度やブランド力の向上を図り、交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎日高村</li> <li>◎JA高知県（仁淀川地区）</li> <li>JA高知県日高支所ハウス園芸部会</li> <li>(株)イチネン高知日高村農園</li> <li>日高村商工会</li> <li>(特非)日高わのわ会</li> <li>(株)霧山茶園</li> <li>(株)村の駅ひだか</li> </ul>	農業	<p>＜経営管理能力及び生産力の向上＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境制御技術の取組（H25～）</li> <li>IoT技術を活用した生産技術向上に向けた取組（R2～）</li> </ul> <p>＜農業経営体の確保・育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人材育成及び産地の体制づくりに向けた組織力の強化</li> <li>農家への経営カウンセリング</li> </ul> <p>＜販売力の向上＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>販売会議の実施</li> <li>県内外の商談会への参加</li> </ul> <p>＜日高村アグリネットワークの連携強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日高村アグリネットワークの開催</li> </ul> <p>＜「日高村まるごとイタリアンプロジェクト」の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オムライス街道事業の実施</li> <li>トマト加工場整備検討などに向け産業振興アドバイザーを招へい</li> </ul>	<p>＜経営管理能力及び生産力の向上＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市場へ産地情報を事前に伝え、販売単価を下落させないために、トマトの出荷量を予測するアプリケーションの開発を行った。</li> </ul> <p>＜農業経営体の確保・育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農の相談があった際に、その情報を蓄積しておき、空きハウスが発生した際にスムーズに就農支援ができるように支援を実施した。</li> <li>⇒新規就農者5名(R2～4)で目標を上回った</li> </ul> <p>＜販売力の向上＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高品質のシュガートマトを安定して市場に共有することができ、産地ブランドの周知につながった。</li> <li>⇒バイヤー調査で日高村産シュガートマトが高い評価を得て一定の単価で取引。</li> </ul> <p>＜日高村アグリネットワークの連携強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>販路開拓への取り組み</li> <li>⇒日高わのわ会の商談会への参加（3回）</li> </ul> <p>＜「日高村まるごとイタリアンプロジェクト」の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オムライス街道キックオフイベント並びにオムライス街道スタンプラリーを継続して実施できた。</li> <li>⇒オムライス街道加盟店：10店舗。</li> </ul>	<p>農産物等の販売額</p> <p>＜目標値（R5）＞ 7.16億円 （年間）</p> <p>＜出発点（H30）＞ 5.4億円 （年間）</p>	<p>＜R5年度末見込＞ 7.23億円 （年間）</p> <p>＜直近の実績＞ 7.09億円 （年間） 【R4年度末】</p>	A	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一次産業においては、安定した品質を保ったまま単位面積あたりのトマト収穫量を増加させることができた。</li> <li>二次産業においては、コロナウイルス感染拡大の影響により、お茶の試飲の場を提供することができず、霧山茶園の商品PRの機会が減少した。一方、わのわ会商品は巣ごもり需要や無添加食品を望む健康志向のユーザーが増加したことから売上増加につながった。村の駅ひだかにおいては地元利用者の割合が大きく、コロナ禍でも安定して2億円以上の売上を達成できた。</li> <li>三次産業においては、オムライス街道関連イベントを継続でき、県内外へ日高村及び日高村産トマトを周知でき、飲食関連事業者の売上増加につながった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>栽培技術が向上する一方で、栽培技術の格差と労働力不足による必要時期の作業遅延等が相まって、収入面での格差が発生している。栽培マニュアルを用いた技術の標準化や繁忙期の雇用者確保への支援を実施する。</li> <li>わのわ会の加工場の稼働状況が生産上限に達しつつある。加工場の整備に向けた支援を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>栽培技術の標準化に向けた取組</li> <li>わのわ会加工場整備に関する支援</li> <li>オムライス街道自走化に向けた支援</li> <li>霧山茶園のお茶の試飲販売の確保に向けた支援</li> </ul>			
				<p>「オムライス街道」によるオムライス販売数</p> <p>＜目標値（R5）＞ 60,000食 （年間）</p> <p>＜出発点（R元見込）＞ 55,475食 （年間）</p>	<p>＜R5年度末見込＞ — （年間）</p> <p>＜直近の実績＞ 52,535食 （年間） 【R4年度末】</p>				B		
				<p>商品・加工品開発件数</p> <p>＜目標値（R5）＞ 25件 （R2～5累計）</p> <p>＜出発点（H28～30）＞ 23件 （H28～30累計）</p>	<p>＜R5年度末見込＞ 23件 （R2～5累計）</p> <p>＜直近の実績＞ 15件 （R2～4累計）</p>					B	
				<p>村外からの移住者数</p> <p>＜目標値（R5）＞ 20組 （R2～5累計）</p> <p>＜出発点（H28～30）＞ 12組 （H28～30累計）</p>	<p>＜R5年度末見込＞ — （R2～5累計）</p> <p>＜直近の実績＞ 26組 （R2～4累計）</p>						S
				<p>新規就農者数</p> <p>＜目標値（R5）＞ 4名 （R2～5累計）</p> <p>＜出発点（H28～30）＞ 19名 （H28～30累計）</p>	<p>＜R5年度末見込＞ 8名 （R2～5累計）</p> <p>＜直近の実績＞ 5名 （R2～4累計）</p>						

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
<p>4 いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト</p> <p>《いの町》</p> <p>いの町での生姜生産を核として、生姜の集出荷場整備を契機に生姜生産農家、地元加工業者や直販所、道の駅、学校及び商工会等が連携し、生産から販売、人材育成までの好循環を生み出す。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・@いの町</li> <li>・JA高知県（仁淀川地区）</li> <li>・いの町商工会 等</li> </ul>	農業	<p>＜生産・販売体制の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産拡大の取り組み強化</li> <li>JA高知県伊野支所生姜集出荷場の整備（H28）産地パワーアップ事業：4億2,000万円</li> <li>栽培管理技術等の向上に向け、栽培研修会等累計52回実施</li> <li>難防除病害対策の検討（R元～）</li> <li>生育異常株の診断及び防除指導（R元～）</li> <li>市場事故防止対策の徹底（R元～）市場事故対策支援PT会の開催</li> <li>JA高知県伊野支所生姜集出荷場入り口等の整備（R2）高知県集出荷施設等緊急整備事業：2,825万円</li> <li>出荷場・生産者GAP点検累計32回実施（H29～）</li> <li>新規就農者等の確保育成に向け、就農相談会参加累計11回、技術勉強会受講累計35回（H29～）、就農に向けた研修生面談6人、新規就農者ほ場確認10回、新規就農者への簿記記帳指導11回</li> <li>出前授業の実施（延べ16校、延べ577人受講）</li> <li>小袋包装機等の導入（R2）高知県集出荷施設等緊急整備事業：1,007万円</li> </ul>	<p>＜生産・販売体制の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病害指導を実施することで早期防除に繋がった</li> <li>・GAP点検指導により、衛生管理など改善に繋がった</li> <li>また、GAP点検により集出荷場の入り口の改善が決定し、事業導入に至った</li> <li>・難防除病害対策を検討し、周知することで、出荷量が確保された</li> <li>・新規就農者の確保育成に向けて取り組み、就農に向けた相談及び就農計画作成ができて、研修の実施、就農につながった</li> <li>⇒新規就農者3名（R元～4）、研修生6名（R元～4）</li> <li>⇒生姜出荷量が839 t（R4年度末）</li> </ul>	生姜出荷量	生姜出荷量	S	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生姜の安定生産と販売拡大に向け、栽培技術の向上のための栽培講習会、GAP点検支援、シードシャッターの設置によるGAPの取り組み強化、就農相談や新規研修生の受け入れ支援などを行い新規就農者を確保することで、目標を大きく上回る出荷量を確保できた。</li> <li>・さらに、生姜を活用した新たな加工品やメニューの開発に組み込み、完成した芽生姜を使った加工品は、直販所での販売や、ふるさと納税への出品、高知市内でのイベント出店による生姜消費拡大に向けたPRを行った。また農家と飲食店が連携し「生姜焼き街道」に組み込み、いの町の生姜をPRした。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出荷量アップに向けた病害虫対策等と担い手の確保、生産コストの削減</li> <li>・市場事故防止対策の徹底</li> <li>・就農に向けた支援及び就農後の経営の安定</li> <li>・生姜のまち「いの」定着に向けたPR強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の肥料価格高騰や生姜の価格低迷などにより、生姜農家の経営が厳しくなっており、栽培を止める農業者や、品目転換する農業者が出てきている。</li> <li>・そこで、これまでの新規就農者の確保育成や加工品開発に加え、生姜の品質向上や栽培にかかるコスト削減につながる取り組みを行い、生姜産地を堅持できるよう取り組みとともに、イベント等を通じて生姜をPRを強化して行く。</li> </ul>
		<p>＜生姜加工品の開発・販路拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新商品の開発及び販路拡大の推進</li> <li>芽生姜の甘酢漬け等試作（H30～）</li> <li>地域産業クラスター形成支援専門アドバイザー導入、県外有名老舗料亭関係者が来高し、甘酢漬け等試食、料亭からレシピ提供（R元）（試作22回）</li> <li>役場職員向け試食会でのアンケート集計、町内居酒屋3店舗で聞き取り（R元）</li> <li>JA高知県伊野支所まいる生姜部会提供の規格外生姜（無償提供）を活用したメニュー開発（R元～R4）8店舗14品見込み</li> <li>芽生姜加工品の商品化に向けたパッケージデザイン協議、営業許可等相談、芽生姜の甘酢漬け菌検査・栄養成分検査実施、完成（R2）</li> <li>酢漬けの衛生面について工業技術センターへ相談、しそ酢漬け菌検査・栄養成分検査実施、完成（R4）</li> </ul>	<p>＜生姜加工品の開発・販路拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生姜の新商品開発に取り組んだ。</li> <li>⇒生姜加工品開発 20品（H29～R4）</li> <li>⇒芽生姜の甘酢漬け、しそ酢漬け完成</li> <li>芽生姜の甘酢漬け 販売開始（R3.1月～）</li> <li>芽生姜のしそ酢漬け 販売開始（R4～）</li> </ul>	<p>＜目標値（R5）＞</p> <p>700 t （年間）</p> <p>＜出発点（H30）＞</p> <p>650 t （年間）</p>	<p>＜R5年度末見込＞</p> <p>— （年間）</p> <p>＜直近の実績＞</p> <p>839 t （年間）</p> <p>【R4年度末】</p>			
		<p>＜生姜を核としたいの町の振興＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生姜のまち「いの」PR戦略の継続による生姜関連産業の発展</li> <li>Kami祭での伊野地区生活改善グループによる生姜料理（生姜ごはん、生姜のかき揚げ）ふるまい、消費拡大に向けたPR（レシピ配布）</li> <li>いの生姜焼き街道での生姜焼きメニュー提供</li> <li>生姜焼き街道のSNS（インスタグラム）での発信強化（週1回投稿）</li> <li>Kami祭での地元高校生による生姜量り売り、生姜い物早食いコンテスト、生姜焼き街道事業者出店</li> <li>規格外生姜の無償提供の取り組み→生姜のあめゆ完成</li> </ul>	<p>＜生姜を核としたいの町の振興＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規格外生姜の無償提供の取り組みにより、生姜加工品が開発された</li> <li>⇒加工品開発数：20品</li> <li>・いの生姜焼き街道の取り組み</li> <li>⇒参加店舗数：延べ74店舗</li> <li>（R2～スタンブラリー中止）</li> </ul>					

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
<p>5 本川手箱ぎじの販路拡大</p> <p>《いの町》</p> <p>いの町本川地区の特産品である「本川手箱ぎじ」の販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品の開発に組み込み、中山間地域の基幹産業として定着させる。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎本川手箱ぎじ生産企業組合</li> <li>・いの町</li> </ul>	農業	<p>〈営業力強化による販路拡大〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県産品商談会等の商談会へ参加</li> <li>・県内でのイベントへの出店</li> <li>・販路拡大に向け産業振興アドバイザーを招へい (R2)</li> <li>・白いきじ誕生等話題性のあるものを利用したプレスリリースを実施 (R2:6本、R3:3本、R4:2本)</li> <li>・きじのレバーを使ったレバーパテを販売開始 (R2~)</li> <li>・土佐のきじ祭りの開催 (R2~)</li> </ul> <p>〈安定した生産体制の確保〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産、販売、経営状況を検討する定例会の開催</li> <li>・きじ飼育等をミッションとした地域おこし協力隊の採用 (R4~)</li> <li>・貯卵用保冷庫の改修・保湿施設設置 (R4)</li> </ul> <p>〈衛生管理向上と生産能力拡大に向けた施設改修〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きじ加工処理施設の整備 (R2)</li> <li>→R2産振補助金の活用 (事業費：11,574万円)</li> <li>・県版HACCP旧第3ステージの認証取得 (R3)</li> <li>・衛生管理マニュアル整備 (R3)</li> </ul>	<p>〈営業力強化による販路拡大〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本川手箱ぎじを地区の特産品として定着させ、認知度を向上させるため、県内イベントへの出店や県内他産地と連携しPR</li> <li>⇒一般消費者への販売が増加 (H30：426.6羽→R4：541.3羽)</li> </ul> <p>〈安定した生産体制の確保〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隔月で定例会を開催し、生産から販売までの関係者が現状や取り組みの方向性を検討、共有した。</li> <li>⇒地域おこし協力隊を採用、生産・営業面を強化した。</li> </ul> <p>〈衛生管理向上と生産能力拡大に向けた施設改修〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家畜衛生保健所による検卵及び受精率等の向上に関する指導を受け確実に実施した</li> <li>⇒受精率や孵化率など生産効率が向上 (R4/R3比:受精率+34.3%、体入卵孵化率+6.6%)</li> </ul>	<p>きじ販売額</p> <p>〈目標値 (R5)〉 2,951万円 (年間)</p> <p>〈出発点 (H30)〉 1,419万円 (年間)</p>	<p>〈R5年度末見込〉 — (年間)</p> <p>〈直近の実績〉 1,494万円 (年間) 【R4年度末】</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の拡大による外食や旅行需要の低迷等により厳しい状況が続いた。</li> <li>・そのような状況でも、県商談会への積極的な参加や、イベントへの出店等地道な取り組みが続けられており、売上もR4年度は上昇に転じてきている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まだまだ、食材としてのきじの認知度は低く、本川地区の特産品としても定着していない。</li> <li>・利益率の高い個人向け販売を伸ばしていく必要がある。</li> <li>・きじは、飲食店のイベント等で使用されるケースが多く、取引継続が課題となっている。</li> </ul>	<p>〈営業力の強化による販路拡大〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定例会の開催</li> <li>・県商談会への参加</li> <li>・きじ認知度向上のためのイベント出店及び情報発信の強化</li> <li>・既存取引先への営業強化</li> </ul> <p>〈安定した生産体制の確保〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産技術維持のための指導・教育</li> </ul> <p>〈衛生管理向上と生産能力拡大に向けた施設改修〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生管理マニュアルに沿った運用</li> </ul>
<p>6 越知町を中心とした食用山椒の生産体制の確立と販売促進</p> <p>《越知町》</p> <p>県内一の食用山椒の生産量を誇る越知町において、圃場条件や気象条件を生かした安定的な生産を推進し、農家所得の向上を図る。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・越知町山椒組合</li> </ul>	農業	<p>〈山椒の安定的な生産の確立〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培管理資料・防除資料の配付 (R2:4回、R3:3回、R4:1回、R5:1回)</li> <li>・栽培講習会等の開催 (R2:1回、R3:2回、R4:1回、R5:1回)</li> <li>・実証ほの設置</li> <li>・サンショウ緩効性肥料による礼肥効果の検討 (R3:2カ所、R4:2カ所、R5:2カ所)</li> <li>・土壌分析の実施 (R2:135点、R3:22点)</li> <li>・新たな担い手確保に向けた取り組み (R2:1回、R3:3回、R4:3回、R5:1回)</li> <li>・収穫時の労働力確保に向けた取り組み (R2:1回、R5:3回)</li> <li>・収穫作業雇用状況調査の実施 (R5:1回、アンケート対象者26名)</li> </ul> <p>〈加工品利用の拡大〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取引状況や需要についての情報共有連絡会 (R2:1回)</li> </ul>	<p>〈山椒の安定な生産技術の確立〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病害の発生状況や対策が周知され、適正防除につながった。</li> <li>・土壌分析に基づく適正な施肥や、選定技術が普及したことで樹勢の維持につながった。</li> <li>・新たな担い手確保対策として産地提案書を作成した。</li> <li>・収穫作業雇用状況調査を実施し、労働力確保対策のために分析している。</li> <li>⇒販売額の向上</li> <li>R元：4,902万円</li> <li>→R2：3,508万円</li> <li>→R3：7,539万円</li> <li>→R4：6,437万円</li> <li>※隔年結果による増減はあるが増加傾向</li> </ul> <p>〈加工品利用の拡大〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒新規取引先を確保した。</li> <li>(R2：1社・関東地区、R5：1社・県内)</li> </ul>	<p>食用山椒出荷量</p> <p>〈目標値 (R5)〉 19.2t (R2~5平均)</p> <p>〈出発点 (H30)〉 19.0t (H29~30平均)</p>	<p>〈R5年度末見込〉 15.3t (R2~5平均)</p> <p>〈直近の実績〉 14.2t (R2~4平均)</p>	C	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病害虫防除資料の配付や講習会の開催、土壌分析に基づく施肥指導、剪定管理指導等を行い、生産者の樹勢の維持についての関心は高まっている。</li> <li>・また、肥料価格等の資材費が高騰している反面食用山椒にたいする引き合いが多く、単価が上昇しており、当面経営面で有利な品目と位置づけできる。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出荷施設等が老朽化</li> <li>・収穫作業を中心とした労働力確保</li> <li>・産地維持のための新たな担い手の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病害虫対策の技術指導の継続</li> <li>・老朽化した施設の改修及びそれに対する支援</li> <li>・現状は収穫作業に支障は無いが収穫作業労力の確保に将来不安を感じる生産者がいるため、収穫作業を中心とした労働力確保の取組への支援</li> <li>・生産者は高齢者が多いため将来に向けて産地維持のために新たな担い手の確保が必要</li> </ul>

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
<p>7 仁淀川流域における林業・木材産業の振興</p> <p>《仁淀川地域全域》</p> <p>仁淀川流域における原木生産の増加及び安定供給に取り組むことにより、加工・流通の安定化を促進し林業・木材産業の振興を図る。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎林業事業者</li> <li>森林組合</li> <li>素材生産業者</li> <li>製材業者</li> <li>自伐林家等</li> </ul>	林業	<p>＜施業地確保や集約化による原木生産推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>林業事業者、森林組合：森林所有者との合意形成による事業地の確保</li> <li>県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）、市町村：高度な森林資源情報の早期把握と増産に向けた新たな事業地の確保を進め、原木生産の増大及び事業者の安定経営に向けた取り組みを支援、各種支援制度に関する情報提供</li> <li>新たにスタートした森林経営管理制度が円滑に運用できるように林業事務所ワーキンググループと市町村の個別訪問等により支援を継続</li> </ul> <p>＜事業者の育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>林業事業者、森林組合：施業の集約化、事業地の確保、路網や集材等に関する作業システムの見直し・改善</li> <li>県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）、市町村：森林組合の施業集約化の促進及び複数年の事業地確保に向けた支援並びに皆伐・再造林の推進</li> <li>林業事業者の施業地における路網や集材等の作業システムの改善に向けた取り組みを支援</li> <li>林業大学卒業生や仁淀川町林業研修生への巡回指導及び意見交換会など、人材育成に向けたフォローアップを継続</li> </ul> <p>＜需給調整体制の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仁淀川町森林管理推進協議会：木材の生産・販売・流通を一括管理するための、仁淀川町林業振興センターの整備・運営支援</li> <li>県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）：仁淀川町林業振興センターの整備・運営に向けた取り組みを支援</li> <li>仁淀川町森林管理推進協議会：仁淀川町林業振興センターの整備後の運営</li> <li>県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）：仁淀川町、越知町、佐川町で取り組む「林業成長産業化地域創出モデル事業」の推進に向け、高精度の森林資源情報をベースとした施業提案作成ソフトの開発及び活用に向けた取り組みを支援</li> <li>需給調整体制の整備を図るため、高性能林業機械の導入を支援</li> </ul> <p>＜大型製材工場の生産・経営力の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県（本庁、林業事務所等）、町：仁淀川林産協同組合集材センターの集荷量の増加にともなう流域からの大型製材工場への安定的な供給体制を支援</li> <li>定期協議を通じた原木調達量や稼働状況の情報共有、市場動向を踏まえた運営等の指導強化</li> <li>流通に関する情報提供、セミナー等の紹介</li> </ul>	<p>＜施業地確保や集約化による原木生産推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>池川木材工業(有)の原木利用量 H30：2.2万㎡、R元：1.9万㎡、 R2：1.6万㎡、R3:1.6万㎡</li> <li>森林経営計画の認定 R4.4.1現在：3,096ha</li> <li>森の工場の新規設定 H30：2団地、 R元：4団地、R2：3団地、R3：7団地</li> <li>森林経営管理制度の市町村支援体制を整備（H30～）</li> </ul> <p>＜事業者の育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高知中央森林組合:オートチョーカー（無線式自動荷外し器）及び繊維ロープにより生産性が向上（H30）</li> <li>仁淀川森林組合:繊維ロープにより生産性が向上（H30）</li> </ul> <p>＜需給調整体制の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高性能林業機械の導入（H30：6台、 R2：3台、R3：2台）</li> <li>仁淀川林産協同組合に選別機を導入（H30）</li> <li>林業成長産業化地域創出モデル事業がスタートし、佐川町・越知町・仁淀川町が一体で高吾北地域原木安定供給協議会を設立し、木材生産・流通体制を整備（H29）</li> <li>スマート林業の取り組みの中で、仁淀川林産協同組合に素材情報の蓄積・共有を図る日報管理・原木流通情報システムを導入（R2～）</li> <li>仁淀川町林業振興センターの竣工（R4）</li> </ul> <p>＜大型製材工場の生産・経営力の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進捗管理及び情報収集</li> </ul>	<p>原木生産量</p> <p>＜目標値（R5）＞ 12.0万㎡ （年間）</p> <p>＜出発点（H30）＞ 9.8万㎡ （年間）</p>	<p>＜R5年度末見込＞ 8.2万㎡ （年間）</p> <p>＜直近の実績＞ 9.1万㎡ （年間） 【R4年度末】</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当初は、生産量が順調に伸びていたが、新型コロナの影響やウッドショック、その後休業となった事業者が出たこと、資材費や燃料代の高騰で林業機械の稼働率の低下など、最近では素材生産量が伸び悩んでいる。それに伴い仁淀川林産協同組合への集荷も伸びていない。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>管内関係機関が連携した安定的な担い手・事業地の確保</li> <li>林業事業者の安定的経営や技術力の継続的な向上</li> <li>森林経営管理制度の円滑な運用</li> <li>製材工場への安定的な供給体制の構築</li> <li>皆伐後の再造林及び下刈りを行う作業員不足</li> <li>仁淀川町における原木流通システムの構築</li> </ul>	<p>・森林クラウドを活用した事業地の集約化、路網整備、高性能林業機械の導入による作業の効率化、インターンシップや研修制度を活用した担い手の確保により生産量の拡大を図り、管内への生産材の集荷増大を図る。</p>
				<p>仁淀川林産協同組合 集材センター集荷量</p> <p>＜目標値（R5）＞ 5.8万㎡ （年間）</p> <p>＜出発点（H30）＞ 3.5万㎡ （年間）</p>	<p>＜R5年度末見込＞ 3.5万㎡ （年間）</p> <p>＜直近の実績＞ 3.4万㎡ （年間） 【R4年度末】</p>			

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
<p>8 仁淀川流域における地域性の高い特用林産物の生産拡大</p> <p>《仁淀川地域全域》</p> <p>地域の特色を持った特用林産物（シキミ・サカキ、きのこ類）の生産量の増加や品質向上により、販売を拡大し生産者の所得の向上を図る。</p> <p>【実施主体】 ・◎特用林産物生産団体</p>	林業	<p>&lt;栽培技術・品質の向上&gt;</p> <p>1 生産者の栽培技術向上と安定的な生産（全品目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産者：栽培技術や病害虫防除指導の実践、作業工程等の見直し・改善</li> <li>県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）：安定した生産及び品質向上に向けた栽培技術指導や病害虫防除指導</li> </ul> <p>2 移住者の参画や副業者の掘り起こしによる生産体制の整備及び生産施設の整備（全品目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町：移住希望者の相談会への参画、地域おこし協力隊等の募集</li> <li>県（本庁、林業事務所、地域本部等）：補助事業等による各種支援制度に関する情報提供</li> <li>遊休地や放棄地を活用した栽培地の確保・拡大（シキミ・サカキ）</li> <li>県（林業事務所、地域本部等）、JA、生産者：生産者訪問時などに遊休地や放棄地についての情報収集を実施</li> <li>生産希望者等への情報提供・マッチング</li> <li>流通体制の整備（全品目）</li> <li>県（本庁、林業事務所、地域本部等）、JA、生産者：流通に関する情報提供、セミナー、商談会等の紹介、関係者への橋渡し、SNSの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産者への個別訪問や病害虫指導等によるA級品の安定出荷</li> <li>栽培技術指導及び情報収集</li> <li>中央西地区特用林産部会の開催</li> <li>栽培放棄地調査</li> </ul> <p>⇒栽培放棄地のマッチング（9件、1.96ha）</p>	<p>シキミ・サカキ生産量</p> <p>&lt;目標値（R5）&gt; 19.0t （年間）</p> <p>&lt;出発点（H30）&gt; 16.5t （年間）</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; 20.0t （年間）</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 18.1t （年間） 【R4年度末】</p>	A	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産量は安定しているが、生産者の維持が課題となっている。また雪害被害の影響で、今後出荷量が減少する恐れがある。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過疎、高齢化により耕作放棄地の増大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化等で圃場を放棄する生産者が出てきているので、今後施業を希望する者と生産者との間でマッチングを進めていく。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>栽培技術指導及び情報収集</li> <li>中央西地区特用林産部会の開催</li> <li>殺菌釜の整備等による原木の殺菌技術の向上</li> </ul>	<p>原木マイタケ生産量</p> <p>&lt;目標値（R5）&gt; 1.0t （年間）</p> <p>&lt;出発点（R元）&gt; 0.5t （年間）</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; 0.9t （年間）</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 0.9t （年間） 【R4年度末】</p>	B	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発生する際の気候により生産量が左右されるため、生産量が不安定となる。また関係者が高齢化や人員の不足、生産施設の拡大が困難など、規模拡大が難しい。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産規模維持のための作業員の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産量を維持できるよう支援をしていく。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>栽培技術指導及び情報収集</li> <li>中央西地区特用林産部会の開催</li> </ul>	<p>菌床キクラゲ生産量</p> <p>&lt;目標値（R5）&gt; 30.0t （年間）</p> <p>&lt;出発点（H30）&gt; 9.0t （年間）</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; 15.0t （年間）</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 12.2t （年間） 【R4年度末】</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在の施設では今の生産量が限界。今後施設拡大の計画もある。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産規模拡大のためのハウスや作業員の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の規模拡大に向け、支援をしていく。</li> </ul>



項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
<p>9 佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト</p> <p>《佐川町》</p> <p>自伐型林業を核とした産業クラスターを形成・推進することで、森林環境の保全及び関連事業を含めた雇用の創出や人材育成等を通じた地域の活性化を目指す。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎佐川町</li> <li>◎自伐型林業やものづくりに取り組む個人・団体</li> </ul>	林業	<p>〈自伐型林業の確立〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域おこし協力隊（自伐）の採用（4人）</li> <li>町民向け研修・体験会の実施 10.8～10.10 チェーンソー研修（9人参加） 10.22 間伐体験（1人参加）</li> <li>地域おこし協力隊向けスキルアップ研修の実施（9月～1月、計3回実施）</li> </ul> <p>〈さかわ産木材を活用したものづくりの推進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域おこし協力隊（発明ラボ）の採用（2人）</li> <li>放課後発明クラブの開催 63回（※3コース・各12人 計36人参加）</li> <li>町内木工事業者（3事業者）による日曜日への出店（6.26）</li> </ul>	<p>〈自伐型林業の確立〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎年、継続した地域おこし協力隊の採用により、自伐型林業の担い手の増加につながった。</li> <li>⇒R2：5人→R4：13人</li> <li>地域おこし協力隊から卒業後も、町内への定着につながった</li> <li>⇒自伐：16名・定着率62%、</li> <li>山林の集約化が着実に進んだ。</li> <li>⇒R2：113ha→R4：369ha</li> </ul> <p>〈さかわ産木材を活用したものづくりの推進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域おこし協力隊の採用</li> <li>⇒発明ラボ2名 定着率60%</li> <li>放課後発明クラブ等の取組を通じて、町内の子どもたちに木を使ってつくる楽しさや温もりを感じてもらったことで、ものづくりへの意識醸成につながった。</li> <li>町産材を活用した商品を日曜市で販売することで、町産材のPRにつながった。</li> </ul>	<p>林業関連新規就業者数</p> <p>〈目標値（R5）〉 20人 (R2～5累計)</p> <p>〈出発点〉 17人 (H28～R元累計)</p>	<p>〈R5年度末見込〉 — (R2～5累計)</p> <p>〈直近の実績〉 13人 (R2～4累計)</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>山林の集約は目標値を大きく上回る成果がでており、町としての山林集約事業の周知が効果を発揮しているものと考えられる。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一方で、R4年度までは地域おこし協力隊（自伐）を安定して採用できていたが、集約した山林が様々な理由により施業が困難であることが分かり、R5年度の自伐の協力隊採用はストップしている状態にあるため、今後の施業方法や担い手の育成を検討していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自伐型林業の施業地の確保状況に応じた地域おこし協力隊の採用</li> <li>施業困難な山林の整備方法の検討</li> <li>町民向け研修・体験会や、地域おこし協力隊向けスキルアップ研修の継続開催</li> <li>放課後発明クラブ等の開催によるものづくり人材の育成</li> <li>簡易製材機を利用した低質材の活用促進と学校や地域と連携したものづくり人材の育成など、ものづくりの仕組みづくり</li> </ul>
				<p>山林の集約化面積</p> <p>〈目標値（R5）〉 400ha (R2～5累計)</p> <p>〈出発点〉 225ha (H28～30累計)</p>	<p>〈R5年度末見込〉 — (R2～5累計)</p> <p>〈直近の実績〉 369ha (R2～4累計)</p>			
<p>10 宇佐の一本釣りうるめいわしのブランド化</p> <p>《土佐市》</p> <p>「宇佐の一本釣りうるめいわし」を原料にした新たな加工品の開発や鮮魚の販路開拓により需要の拡大を図るとともに、地域限定の名物食として提供する体制づくりを進め、地域での雇用創出と経済効果の波及を目指す。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎企業組合宇佐もん工房</li> </ul>	水産業	<p>〈販路拡大と販売促進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規の展示会、商談会への出展及び情報収集（R2～4）</li> <li>ふるさと納税返礼品の取り扱い強化</li> </ul> <p>〈「宇佐の一本釣りうるめいわし」の認知度向上に向けた販売促進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>うるめいわしをメインにした祭りの開催の検討</li> </ul> <p>〈原材料の確保、新商品の開発〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原料ストックしやすい材料（ほぐし身、すり身）を使用した商品の開発</li> <li>鮮度を保持した加工技術を活用した商品の開発</li> </ul>	<p>〈販路拡大と販売促進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>積極的な商談会への参加により、取引件数が増加</li> <li>⇒商談成約件数15件（R2～4）</li> <li>ふるさと納税返礼品のPRと取扱強化</li> <li>⇒返礼品の取扱件数が増加 R3:44件 → R4:4,236件</li> </ul> <p>〈「宇佐の一本釣りうるめいわし」の認知度向上に向けた販売促進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域おこし協力隊が企画する飲食店スタンブラリー事業「土佐市ぐるめぐり」（11月～1月末）への参加で集客を図った</li> </ul> <p>〈原材料の確保、新商品の開発〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水揚げ量の多いときに冷凍し加工用の原料を確保</li> <li>他魚種を使用した加工品開発</li> <li>⇒加工品売上高の増加 R2:12,000万円 → R4:12,495万円</li> </ul>	<p>販売額</p> <p>〈目標値（R5）〉 15,000万円 (年間)</p> <p>〈出発点（H30）〉 9,084万円 (年間)</p>	<p>〈R5年度末見込〉 — (年間)</p> <p>〈直近の実績〉 12,495万円 (年間) 【R4年度末】</p>	C	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他魚種の加工商品の開発に取り組むとともに、商談会への積極的な参加やふるさと納税返礼品の取り扱いの強化等を図ることで、順調に売り上げを伸ばしている</li> <li>目標値達成には至っていないものの、メインとなるうるめいわしの原料確保が厳しい中で、着実に売上高を伸ばしていることは大きな成果といえる</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>さらなる販路拡大及び商品開発</li> <li>原料となるうるめいわしの安定した供給体制</li> <li>発注増加に対応するための生産性の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生食用魚介類加工の製造ノウハウを活かした新たな商品開発と販路の拡大</li> <li>新たな機械導入を視野に入れた加工ラインの更なる作業効率化</li> </ul>

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
<p>11 宇佐のアサリ資源を活用した地域の活性化</p> <p>《土佐市》</p> <p>天皇洲での「かぶせ網」によるアサリ資源の保護を継続するとともに、増殖したアサリを活用し管理型育成型の潮干狩りの実施等、アサリ資源を活用した取組を推進し、宇佐地域にかつてのような賑わいを取り戻し、地域の活性化につなげていく。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎宇佐地区協議会</li> <li>宇佐アサリ垂下式養殖プロジェクトチーム</li> <li>土佐市</li> </ul>	水産業	<p>〈かぶせ網によるアサリ資源の保護・回復〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かぶせ網の定期的なメンテナンス、モニタリング等の実施</li> <li>小学生を対象とした潮干狩り体験の実施</li> </ul> <p>〈アサリ資源を活かした経済活動の推進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>潮干狩り事業実施に向けた実証試験と事業化及び実施体制の検討（R3～）</li> </ul> <p>〈アサリの垂下式養殖〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>垂下式養殖の生産技術等確立</li> <li>養殖したアサリの販路の確保に向けた取組</li> <li>実入りの良さを活かした宇佐アサリのブランド化</li> </ul>	<p>〈かぶせ網によるアサリ資源の保護・回復〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かぶせ網の定期的なメンテナンス、モニタリング等により資源の回復が図られた ⇒アサリの資源増加 R1：81.1トン → R3：138.7トン</li> </ul> <p>〈アサリの垂下式養殖〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学生を対象とした潮干狩り体験を実施することで、資源保護活動の周知が図られた ⇒潮干狩り体験参加者の増加 R2～4：95人</li> </ul>	-	-	-	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保全活動のかぶせ網交換が優先となり、経済活動に向けた取組が後回しとなっている</li> <li>交付金に頼らない保全活動体制の確立（潮干狩り、宇佐ブランド化のアサリ販売、垂下式養殖への種苗販売等による収入での干潟管理に向けた体制づくり）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資源の回復に向けた保全活動の継続的な実施</li> <li>R6年度の経済活動の開始に向けて事業計画（体制の確立含む）等の検討</li> </ul>
<p>12 土佐市における養殖魚加工体制の構築による加工品の販売拡大と地域の振興</p> <p>《土佐市》</p> <p>(株)土佐マリンベースが養殖魚（ブリ、マダイ、カンパチ）の産地加工体制を構築するとともに、常に変化を食品の流通形態に合わせた商品開発や地元食材の活用による商品の高付加価値化、販売チャネルの整備等に取り組むことで、養殖業等の振興、地元雇用の創出及び地元産品の利用拡大につなげる。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎(株)土佐マリンベース</li> <li>和光商事(株)</li> </ul>	水産業	<p>〈産地加工体制の構築〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水産加工施設の整備（R3） 高知県水産加工施設等整備事業費補助金 R3：112,623千円 輸出拡大施設整備等事業費補助金 R3：131,257千円</li> <li>水産加工施設の本格稼働開始（R4.6）</li> <li>地域事業者と連携した一次及び二次加工商品の製造協議、受託開始（R4～）</li> </ul> <p>〈商品の開発〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県内事業者と連携した新商品の開発（R4～）</li> <li>水産物輸出促進コーディネーターを通じた国内商社への商品開発の相談（R5）</li> </ul> <p>〈県外での販路拡大〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>HACCP導入のためのアドバイザーの招へい及び社内研修（R4.9）</li> <li>米国向けHACCPの取得（R5見込み）</li> <li>米国及びベトナム向け施設登録の実施（R5見込み）</li> <li>国内外の展示会への出展 R4：国内（4回）、国外（米国1回） R5：国内（5回（予定））、 国外（米国1回（予定））</li> <li>水産物輸出促進コーディネーターを通じた国内の輸出商社への商品提案（R5）</li> </ul>	<p>〈産地加工体制の構築〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R3年度に水産加工施設を整備しR4.6月から本格稼働を開始した ⇒18名の雇用を創出 （正規15名、パート3名：R5.6末時点）</li> <li>地域事業者と連携した加工体制の構築</li> </ul> <p>〈商品の開発〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新商品開発に向けて事業者と連携 ⇒県内事業者と連携した新商品を試作</li> </ul> <p>〈県外での販路拡大〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>輸出に向けたHACCPの取得の取り組みを開始 ⇒米国向けHACCPの取得（R5見込）、米国及びベトナム向け施設登録の実施（R5見込）にむけた取り組み準備</li> </ul>	<p>売上高</p> <p>&lt;目標値（R5）&gt; 3億1,800万円 （年間）</p> <p>&lt;出発点&gt; - （年間）</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; 1億5,150万円 （年間）</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 1億1,000万円 （年間） 【R4年度末】</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R4.6月から本格稼働し、国内外への販路開拓を進めている。</li> <li>加工施設の整備により18名の雇用を創出している。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>加工原料（養殖魚）の確保（※全国的にブリが不足）</li> <li>顧客ニーズに合った商品開発</li> <li>国内外への販路開拓</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸出に向けたHACCP認証の取得及び輸出水産食品認定施設の登録</li> <li>水産物輸出促進コーディネーターの支援による顧客ニーズに合った商品開発や販路開拓</li> <li>展示会等への出展や国内外の商社と連携した販路の拡大</li> </ul>

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
<p>13 「土佐和紙」の販売促進と保存・継承</p> <p>《土佐市、いの町、仁淀川町、日高村》</p> <p>地域の伝統産業である「土佐和紙」は、手すき和紙職人、用具職人、楮栽培農家のいずれもが高齢化のため生産が減少し、土佐和紙の売上も低迷していることから、手すき和紙及び機械すき和紙を含め、原料や担い手の確保を図るとともに、県内外での消費の拡大につなげる取り組みを行う。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎手すき和紙協同組合</li> <li>◎高知県製紙工業会</li> <li>いの町紙の博物館</li> </ul>	商工業	<p>&lt;「土佐和紙」の販売促進と保存・継承に向けた取り組み&gt;</p> <p>○土佐和紙の原料確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楮試験栽培の実施（R元～）</li> <li>・楮生産者との意見交換、楮WSの開催（R3）</li> <li>→（実績）各1回開催</li> </ul> <p>○用具の確保と土佐和紙生産者の後継者育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資材貸出し制度（いの町）の構築（R2）</li> <li>・用具製作者の育成（R2～）</li> <li>→（実績）R2：1名、R4：1名、R5：1名（研修中）</li> <li>・手すき職人の後継者掘り起こし</li> <li>→（実績）相談件数 R2：2件、R3：5件、R4：1件、R5：1件</li> <li>・手すき和紙職人の後継者育成</li> <li>→（実績）長期研修：2名（R元～2）</li> </ul> <p>○土佐和紙PR・販売促進・新商品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内外でのイベント等でPR</li> <li>→（実績）R2：6回、R3：6回、R4：6回、R5：1回</li> <li>・販路開拓、販売促進（R2～）</li> <li>→国内外で実施される見本市や商談会への出展支援等（R2～）</li> <li>→売り場の魅力向上に向け産業振興アドバイザーを招へい（R3）</li> <li>→土佐和紙を含む伝統的工芸品等のデジタルパンフレットの製作（R4）</li> <li>・新商品開発</li> <li>→（実績）技術支援 R2：14回、R3：12回、R4：17回</li> </ul> <p>○土佐和紙文化の発信と無形文化遺産登録</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県立施設等での活用や企画展の実施等（R2～）</li> <li>・紙とあそぼう作品展（R2～）※R2はコロナにより中止</li> <li>・高知国際版画トリエンナーレ展の開催（R2、R5）</li> </ul>	<p>&lt;「土佐和紙」の販売促進と保存・継承に向けた取り組み&gt;</p> <p>○土佐和紙の原料確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楮生産の課題解決に向けた取り組みについて、アイデア出しを行うことができた。（R3）</li> </ul> <p>○用具の確保と土佐和紙生産者の後継者育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資材の貸出し</li> <li>⇒実績1回（R2）</li> <li>・手すき和紙職人後継者育成</li> <li>⇒長期研修終了生：2名（R2）</li> </ul> <p>○土佐和紙PR・販売促進・新商品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくり総合技術展への出展など、土佐和紙のPRを行うことができた。</li> <li>・国内外で実施される見本市や商談会への出展など土佐和紙の販売促進に取り組むことができた。</li> <li>・新商品開発（技術支援）を実施した</li> <li>⇒新商品開発件数：4件（R2～4）</li> </ul> <p>○土佐和紙文化の発信と無形文化遺産登録</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋堂スペースファクトリー南国でのワークショップなど、土佐和紙の文化発信を行うことができた。</li> <li>・紙とあそぼう作品展の入場者増加</li> <li>⇒R3：2,245人、R4：2,455人</li> <li>・高知国際版画トリエンナーレ展の実施</li> <li>⇒会期中の入場者 R2：6,760人</li> </ul>	<p>土佐和紙販売額</p> <p>&lt;目標値（R5(暦年)）&gt; 7.0億円 (年間)</p> <p>&lt;出発点（H30(暦年)）&gt; 5.5億円 (年間)</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; — (年間) 【R5(暦年)】 ※販売額調査は年1回 (4月～6月)</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 4.76億円 (年間) 【R4(暦年)】</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原料、担い手、付加価値づくりそれぞれにおいて、有効な打開策が見いだせていない（全国の各産地も苦戦、特効薬はない）</li> <li>・また、これらの課題は相互に関連（例えば、和紙の販売が不振→原材料の楮（こうぞ）も必要量が減少、将来職人として生活していけるか見通しが立たないため、新規研修生を受け入れられない等）している。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土佐和紙の売上は、R2年度以降コロナ禍の影響もあり下降傾向が続いているものの、土佐和紙産業は、地域の重要な産業資源であることは変わらないため、まずはコロナ禍前の水準回復を目指して、第2期土佐和紙総合戦略をはじめとして活性化策を実施していく必要がある。</li> </ul>	<p>「第2期土佐和紙総合戦略（以下「第2期戦略」）（R5～R9）」を策定。第2期戦略で定めた3つの基本方針（「原料づくり」、「担い手づくり」、「付加価値づくり」）の取り組みを推進する。</p> <p>1原料づくり (1) 持続可能な原料生産の仕組みづくり (2) 原料生産の効率化</p> <p>2担い手づくり (1) 研修受け入れの体制の構築 (2) 用具供給の仕組み整備 (3) 土佐和紙の技術保存の方法等の構築（ユネスコ登録等）</p> <p>3付加価値づくり (1) 商品開発の推進 (2) 見本市や商談会等への参加 (3) 土佐和紙のPR（土佐和紙文化発信含み）</p>
<p>14 「ドラゴン広場」を核にした高岡商店街の活性化</p> <p>《土佐市》</p> <p>観光案内機能や農産物等の直販所などを備えた拠点施設「ドラゴン広場」を核として、テナントミックスの「にぎわいのまち」をつくることによって来街者の増加を図り、地域商業の振興につなげる。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎土佐市商工会</li> <li>土佐市</li> </ul>	商工業	<p>&lt;高岡商店街への来場者を増加させる仕組みづくり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的なテナント会の開催による集客策の検討</li> <li>・ドラゴン広場を中心とし、高岡商店街を巻き込んだイベント開催の調整</li> </ul>	<p>&lt;高岡商店街への来場者を増加させる仕組みづくり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビアホールや地元青年団と連携したドラゴン夜市等の各種イベントを開催するとともに、来場者向けの割引・特典キャンペーンを実施するなどして、当該施設への誘客及び売上の増加が図られた</li> <li>⇒施設直販市の販売額が増加</li> <li>R2：5,262万円</li> <li>R4：6,079万円</li> </ul>	<p>施設直販市での販売額</p> <p>&lt;目標値（R5）&gt; 5,900万円 (年間)</p> <p>&lt;出発点（H30）&gt; 5,438万円 (年間)</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; — (年間)</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 6,079万円 (年間) 【R4年度末】</p>	A	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的なテナント会を通して、実施主体とテナント等が連携し、可能な範囲で集客策等の検討、実施に取り組んでおり、R4売上額は、R5目標額を上回る実績となった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R4年度末で直販市が撤退しており、今後の安定的な施設運営について、施設機能や在り方も含めた検討が必要となってきている</li> <li>・継続的な集客に繋げるための施設の魅力づくりや商店街を巻き込んだ地域の活性化も課題となっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土佐市中心市街地活性化協議会を中心とした、ドラゴン広場の今後の運営や在り方の検討</li> <li>・テナントが一体となった集客策及び情報発信の強化</li> <li>・商店街振興計画と絡めたイベントの実施</li> </ul>

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性	
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価		
<p>15 いの町中心市街地の活性化</p> <p>《いの町》</p> <p>いの町中心市街地の空き地・空き店舗等を有効活用して、街の活力を高めるとともに、「いこいのまち」をキーワードとして誰もが訪れたいまちづくりを目指し、商店街の各店舗の魅力を高め、新たな開業を促進する。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎いの町</li> <li>◎いの町商工会</li> </ul>	商工業	<p>＜中心市街地活性化計画実行に向けての取り組み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくり組織立ち上げ及び地元高校生との連携（R3～）</li> <li>いの町中心市街地活性化計画の見直し及び新計画策定に向けた支援</li> <li>アクションプランの見直しに向けた協議会開催（R4）</li> <li>産業振興アドバイザー招へい4回（R4）</li> <li>第2期いの町中心市街地活性化計画の策定（R4）</li> </ul> <p>＜イベント等開催によるにぎわいの創出＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商店街でのイベント開催</li> <li>Kami祭、かみのひなまつり（H27～）</li> <li>いの町商店街を含む町内の飲食店による「いの生姜焼き街道スタンプラリー」の開催（H27～）</li> <li>整備した町有地でのイベント開催（まちなかスタンプラリー、まちなかバスケットボールin INOTOWN）（R4～）</li> <li>商店街よさこい交流演舞（R4～）</li> </ul> <p>＜町内への開業の誘致＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>創業支援ワンストップ窓口、移住相談業務開始（H28～）</li> <li>中心市街地空き店舗等活用事業費補助制度を策定（R3）</li> </ul>	<p>＜中心市街地活性化計画実行に向けての取り組み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業振興アドバイザーを導入して中心市街地活性化協議会ワーキンググループを開催し、商店街事業者、関係事業者、地元住民等の意見を抽出し、計画に反映することができた。</li> </ul> <p>＜イベント等開催によるにぎわいの創出＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商店街でのイベントを開催することで、中心市街地のにぎわいの創出に繋がった。</li> </ul> <p>＜町内への開業の誘致＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空き店舗活用への家賃補助事業実施、店舗改修補助金、創業補助制度等に関する情報発信及びワンストップ窓口対応等により、中心市街地での開業者支援や新規開業促進に繋がった。</li> <li>⇒中心市街地での開業者数 H28～R元：累計15事業所 →R2～4：累計12事業所 空き店舗家賃補助事業 ⇒R3：4事業所→R4：6事業所</li> </ul>	中心市街地での事業所新規開業	<p>＜目標値（R5）＞</p> <p>8事業所 （R2～5累計）</p> <p>＜出発点＞</p> <p>15事業所 （H28～R元累計）</p>	<p>＜R5年度末見込＞</p> <p>— （R2～5累計）</p> <p>＜直近の実績＞</p> <p>12事業所 （R2～4累計）</p>	S	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業振興アドバイザーを導入して中心市街地活性化協議会ワーキンググループを開催し、商店街事業者や関係事業者、地元住民等の意見を反映した第2期いの町中心市街地活性化計画を策定できた。</li> <li>空き店舗活用への家賃補助事業の実施、店舗改修補助金、創業補助制度に関する情報発信及びワンストップ窓口対応等により、中心市街地での事業所の新規開業数は各年度の目標を上回って達成している。</li> <li>既存のイベントでの集客に加えて、R4からは整備した町有地でのイベントを開催するなど、中心市街地に人を呼び込む形ができており、にぎわいの創出に繋がっている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地活性化計画を持続可能なものにしていくためのキーマン及びプレイヤーの発掘・育成及び関係機関の連携体制の構築</li> <li>活用可能な空き店舗の発掘及び情報発信の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2期いの町中心市街地活性化計画にかかるアクションプランの確実な実行</li> </ul>
<p>16 地域産品を活用した冷菓等の製造販売</p> <p>《いの町》</p> <p>地域特産品であるゆず、トマト、いちご、文旦等を活用したアイスクリーム、シャーベット、ドリンク等の生産性の向上と販売拡大を図るとともに、生産者の所得向上を目指す。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（有）高知アイス</li> </ul>	商工業	<p>＜販路拡大と販売促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種商談会・展示会への出店</li> <li>産業振興アドバイザーを導入してBtoC向けweb通販販路開拓を実施（R3:5回）</li> <li>新たな搾汁工場の整備（R3、R4稼働）</li> <li>→事業再構築補助金の活用</li> <li>オンラインショップのリニューアル（R3）</li> <li>→事業戦略等推進事業費補助金（コロナ特別枠）の活用</li> <li>原材料の安定確保に向けたゆず栽培の開始（R4）</li> </ul> <p>＜観光客や工場見学者などへの販売強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>工場見学の受入れ</li> <li>Instagramを活用した売店の魅力発信</li> </ul> <p>＜新商品の開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コラボ商品の販売（「竜とそばかすの姫」、「クレヨンしんちゃん」など）</li> <li>PB商品製品の製造（八剣伝、JAL国際線など）</li> </ul>	<p>＜販路拡大と販売促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商談会や展示会への積極的な参加等により、海外市場での売上が増加</li> <li>⇒R元.12月期7,601万円</li> <li>→R4.12月期1億1,682万円</li> <li>原材料の安定確保のため、ゆずの自社栽培や搾汁工場の新設を行った。</li> </ul> <p>＜観光客や工場見学者などへの販売強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>売店にキャッシュレス決済を導入し、顧客の利便性を向上させた。</li> <li>高知県YouTuber「ちやがまん」とのコラボ動画を配信し、新たな顧客の確保に取り組んだ。</li> </ul> <p>＜新商品の開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新商品を開発販売したほか、映画や企業とのタイアップが実現した。</li> <li>⇒新商品：本気ですっぱいゆずもなかなど</li> </ul>	冷菓等の販売額	<p>＜目標値（R5）＞</p> <p>6.5億円 （年間）</p> <p>＜出発点（H30）＞</p> <p>4.9億円 （年間）</p>	<p>＜R5年度末見込＞</p> <p>— （年間）</p> <p>＜直近の実績＞</p> <p>5.35億円 （年間） 【R4年度末】</p>	C	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商談会や展示会への積極的な参加により取引先が増加している。また、企業とのタイアップ、農業分野への参入など、新たな事業展開もみせている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で大口取引先との取引中止による売上の減少</li> <li>設備が老朽化してきているほか、生産能力が上限を迎えようとしており、新規の大口取引が受けられない状況となっている。</li> <li>夏場の繁忙期の人材確保</li> <li>物価高騰による商品の値上げを余儀なくされている。</li> </ul>	<p>＜販路拡大と販売促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種商談会・展示会等への出展</li> <li>海外市場への更なる販路拡大</li> </ul> <p>＜安定した生産体制の確保＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>工場の新増設の検討</li> <li>搾汁工場とゆず栽培の安定化</li> <li>特定地域づくり事業協同組合制度を活用した人材確保</li> </ul>

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性	
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価		
<p>17 仁淀川町で製造するクラフトビールの展開による交流人口の拡大と地域の活性化</p> <p>《仁淀川町》</p> <p>MUKAI CRAFT BREWING(株)が清流仁淀川の水と副原料として地元食材を活用したクラフトビールを製造するとともに、県内外への販路拡大を図りながら、仁淀ブルーのイメージを活かした地域ブランドを確立し、観光交流人口の拡大や地域の活性化に繋げる。</p> <p>【実施主体】 ◎MUKAI CRAFT BREWING(株) ・仁淀川町</p>	商工業	<p>&lt;製造及び販売体制の強化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クラフトビールの醸造開始(R2)</li> <li>ムカイクラフトブルーイング(醸造設備)と併設された飲食スペース「BLUE BREW(ブルーブルー)」のオープン(R2)</li> <li>県工業技術センターへの成分分析及び官能評価の依頼(R2)</li> <li>人員体制の強化(R5)</li> </ul> <p>&lt;積極的な販売促進活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町内外の飲食店での卸販売を開始(R3)</li> <li>ふるさと納税の取扱い開始(R3)</li> </ul> <p>&lt;ブランド化戦略の実施&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地場産業大賞の「産業振興計画賞」を受賞(R3)</li> <li>新商品、期間限定商品の開発</li> </ul>	<p>&lt;製造及び販売体制の強化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クラフトビールの本格醸造・販売の開始</li> </ul> <p>⇒売上高の増加 R2:370万円 →R4:1,850万円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人員体制の強化</li> </ul> <p>⇒雇用の創出(R5見込) 1名(長期)</p> <p>&lt;積極的な販売促進活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規顧客の獲得</li> </ul> <p>&lt;ブランド化戦略の実施&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>認知度向上</li> <li>新規顧客の獲得</li> </ul>	クラフトビール販売額	<p>&lt;目標値(R5)&gt; 1,300万円 (年間)</p> <p>&lt;出発点&gt; -</p> <p>※会計年度:3~2月</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; -</p> <p>(年間)</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 1,850万円 (年間) 【R4年度末】</p> <p>※会計年度:3~2月</p>	S	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ネットやふるさと納税の返礼品として継続的に販売展開を図ることにより新規顧客の獲得につながっている。</li> <li>新商品の開発・販売、期間限定商品の販売によりブランド力の向上につながっている。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>円滑な稼働と安定生産に向けた生産体制の構築</li> <li>安全性と品質の確保</li> <li>ブランド化に向けたプロモーション活動や新商品開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成分の数値化(県工業技術センターの分析)による製造技術の向上</li> <li>県版HACCP(新第2ステージ)の認証取得など品質管理と衛生管理の確立</li> </ul>
<p>18 仁淀川町における(株)フードプランを核としたカット野菜事業クラスタープロジェクト</p> <p>《仁淀川町》</p> <p>カット野菜事業を展開する(株)フードプランを仁淀川町での基幹産業として位置付け、事業の継続的な実施と販売拡大によって雇用の確保や農業者の所得向上につなげる。</p> <p>【実施主体】 ◎・(株)フードプラン ・仁淀川町 ・生産者団体 ・庭先集荷の農家</p>	商工業	<p>&lt;生産能力の拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>技能実習から特定技能への移行(R2~5)</li> </ul> <p>&lt;販路拡大、商品開発&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>販路拡大に向けた消費期限延長に係る機器の視察(R2~5)</li> <li>端材を活用した商品開発(R2~5)</li> </ul> <p>&lt;原料供給体制の強化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農福連携による水耕栽培施設の整備(R4)</li> </ul>	<p>&lt;生産能力の拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>技能実習から特定技能への移行者の確保により体制強化につながっている。</li> </ul> <p>&lt;販路拡大、商品開発&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中四国エリア向けの商談会等への出展や営業活動の実施</li> </ul> <p>⇒関東圏、関西圏の販路拡大につながっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ドレッシング試作品開発3品</li> </ul> <p>&lt;原料供給体制の強化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>工場隣地でのベヒーリーフ、リーフレタスの水耕栽培施設との連携により、原料確保が図られた。</li> </ul>	(株)フードプランの販売額	<p>&lt;目標値(R5)&gt; 10億円 (年間)</p> <p>&lt;出発点(R元)&gt; 7.4億円 (年間)</p> <p>※会計年度:10~9月</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; -</p> <p>(年間)</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 8.8億円 (年間) 【R4年度末】</p> <p>※会計年度:10~9月</p>	B	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規取引先が増加しており、目標額には届いていないものの、売上額が年々増加している。</li> <li>農福連携による水耕栽培施設との連携により、原料供給体制の強化が図られた。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産性の向上のための安定した雇用の確保</li> <li>近畿、関東圏への販路拡大に向けた輸送ルート確保や消費期限の延長</li> <li>産地形成による県内産野菜の安定調達に向けた仕組みづくりの構築、高付加価値商品の開発・販売</li> <li>端材野菜の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベトナム人技能実習生、特定技能人材の受け入れ</li> <li>消費期限の延長策とそれに伴う販路拡大の検討</li> <li>農福連携事業による水耕栽培施設との連携など原料供給体制の強化</li> <li>端材を活用したドレッシングの商品化</li> <li>カット野菜を活用した観光振興策の検討</li> </ul>

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
19 仁淀川町における茶を中心とした農産物の6次産業化推進 《仁淀川町》 仁淀川町の基幹品目である茶をはじめとした農業者の経営持続を図るため、農産物の高付加価値化を進め、6次産業化の推進を図る。 【実施主体】 ◎・(株)ピバ沢渡 ◎・(株)池川茶園 ◎・トトレシ(株) ・仁淀川町	商工業	<p>&lt;(株)ピバ沢渡による施設整備及び経営の持続化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>加工品製造施設整備 (R3) 産振特別支援補助金 R3:1,497万円 (総事業費)</li> <li>オペレーション改善 産業振興アドバイザー招へい 3回 (R2)、2回 (R3)</li> <li>経営改善計画の策定 産業振興アドバイザー招へい10回 (R4)</li> </ul> <p>&lt;茶等を原料とした6次産業化の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新商品開発 産業振興アドバイザー招へい3回 (R2)</li> </ul> <p>&lt;後継者及び担い手の確保・育成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町内生産者が連携した茶の収穫、茶畑の管理</li> </ul>	<p>&lt;(株)ピバ沢渡による施設整備及び経営の持続化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>加工品製造施設の活用により、新商品の開発、生産体制の強化充実を図ることができた。</li> </ul> <p>&lt;茶等を原料とした6次産業化の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規顧客の獲得につながっている。 ⇒新商品開発6品</li> </ul> <p>&lt;後継者及び担い手の確保・育成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>閑散期に応じた人員の配置転換により組織体制の強化が図られている。</li> </ul>	<p>(株)ピバ沢渡の販売額</p> <p>&lt;目標値 (R5)&gt; 1億円 (年間)</p> <p>&lt;出発点 (H30)&gt; 5,200万円 (年間)</p> <p>※会計年度：2～1月</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; — (年間)</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 5,697万円 (年間) 【R4年度末】</p> <p>※会計年度：2～1月</p>	D	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(株)ピバ沢渡については、コロナの影響と茶葉の価格の低迷などにより、売上（特に農業部門）が伸び悩んでいたため、産振アドバイザーを導入して経営改善計画を策定</li> <li>(株)池川茶園及びトトレシ(株)については、売上が右肩上がりです</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(株)ピバ沢渡については、中長期的な視点に立った経営基盤の強化</li> <li>茶産業を持続させるための担い手の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内の茶生産事業者及び地域住民との連携による労働力の確保</li> </ul> <p>(株)ピバ沢渡</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経営改善計画に係るアクションプランの確実な実行</li> <li>関係者による定例会にて経営状況などの共有、課題への対応</li> </ul> <p>(株)池川茶園</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商品開発への産振アドバイザーの活用</li> </ul>
				<p>(株)池川茶園及びトトレシ(株)の販売額</p> <p>&lt;目標値 (R5)&gt; 5,000万円 (年間)</p> <p>&lt;出発点 (H30)&gt; 4,700万円 (年間)</p> <p>※会計年度：2～1月</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; — (年間)</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 5,567万円 (年間) 【R4年度末】</p> <p>※会計年度：2～1月</p>			
20 さかわの地乳(ちちち)を活用した売れる商品づくりと地産外商の推進 《佐川町》 佐川町の特産である「さかわの地乳」を使い、地元の事業者が特長のある商品づくりを行うとともに、地産外商を推進し、外貨の獲得を目指す。 【実施主体】 ・◎(有)吉本乳業 ・地元商工業者 ・地元酪農家 ・佐川町商工会 ・佐川町 ・JA高知県(仁淀川地区)	商工業	<p>&lt;さかわの地乳(ちちち)を使った加工品の開発及び販売促進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地乳を活用した土産品の販売開始(6品)</li> <li>さかわの地乳プロジェクト会の開催時期の検討</li> </ul> <p>&lt;牛乳加工施設の整備及び販路拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県版HACCP新第1ステージの認証に向けた資料のブラッシュアップ(R4.3月申請済)</li> </ul>	<p>&lt;さかわの地乳(ちちち)を使った加工品の開発及び販売促進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地乳を活用した商品販売により地乳の認知度が向上している。</li> </ul> <p>&lt;牛乳加工施設の整備及び販路拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地乳を使用する県外の飲食店も増えており、販路が拡大している。 ⇒売上額 R2:1.10億円→R4:1.15億円</li> </ul>	<p>牛乳類商品販売額</p> <p>&lt;目標値 (R5)&gt; 1.57億円 (年間)</p> <p>&lt;出発点 (R元)&gt; 1.06億円 (年間)</p> <p>※会計年度：8～7月</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; — (年間)</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 1.15億円 (年間) 【R4年度末】</p> <p>※会計年度：8～7月</p>	C	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R2年度以降の売り上げも徐々に安定している。</li> <li>県外の飲食業者との契約は順調に売り上げを伸ばしている。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近年の物価高騰により生乳やパック類、製造に伴う電気代など大きな影響が出ている。それらは宅配の契約の減少にもつながっており、売り上げにも影響が出ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地乳を活用した新商品の開発検討</li> <li>道の駅を活用した地乳ブランドのPR</li> <li>県版HACCP認証(第1ステージ)の取得</li> <li>各種商談会への出展による販路拡大</li> </ul>

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
21 道の駅を拠点とした「ごちそう佐川」プロジェクト 《佐川町》 佐川町の地域食材を活用した食と町民によるおもてなしの心を表す「ご馳走」をコンセプトとした道の駅を新たに整備し、特産品等の販売を促進するとともに、地域の木材に触れられる場の提供や周辺の観光施設との連携を通じて、交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。 【実施主体】 ・◎佐川町 ・◎（一財）しあわせづくり佐川	商工業	〈道の駅施設の整備、体制強化〉 ・道の駅施設の本体工事 産振補助金の活用：50,000千円（R4） ・レストラン等のテナント業者決定 ・開業に向けた運営体制の構築  〈佐川町の特産品等の充実強化〉 ・地域資源を活用した商品・メニューの磨き上げ及び開発	〈道の駅施設の整備、体制強化〉 ・運営組織「（一財）しあわせづくり佐川」の設立（R3.7月） ⇒職員雇用7名、地域おこし協力隊2名（R5.7月現在） ・R5.6.25 道の駅オープン ・R5.7.15 おもちゃ美術館オープン  〈佐川町の特産品等の充実強化〉 ・道の駅の柱となるオリジナル商品の開発（4品）産振アドバイザー制度活用（全5回：R4.6～R5.1） 当面はオリジナル商品をパウムクーヘンに絞って販売を行うことにした。 ・道の駅オリジナル商品の製造計画の作成 産振アドバイザー制度活用	年間売上高 〈目標値（R5）〉 2.5億円 （年間）  〈出発点〉 —	〈R5年度末見込〉 —  〈直近の実績〉 —	—	【評価】 ・「まきのさんの道の駅・佐川」開駅 ・また、産振アドバイザー制度の実施により道の駅オリジナル商品（パウムクーヘン）の開発にも取り組むことができた。  【課題】 ・運営組織の人員体制が十分でない。 ・道の駅オリジナル商品（パウムクーヘン）の製造に係る人手不足	・運営組織の人員体制の確保及び経営の安定化 ・オリジナル商品（パウムクーヘン）の安定した製造・販売 ・佐川町内を周遊させるしくみづくり
				レジ通過者数 〈目標値（R5）〉 25万人 （年間）  〈出発点〉 —	〈R5年度末見込〉 —  〈直近の実績〉 —			
22 「村の駅ひだか」での農産物等の販売による地域商業の振興と地域の活性化 《日高村》 「村の駅ひだか」での地域農産物や地域資源を活用した加工食品、手芸品など村内特産品の販売等により、地域商業の振興を図り、地域の活性化を目指す。 【実施主体】 ・◎(株)村の駅ひだか ・日高村	商工業	〈直販市の機能強化〉 ・四季を通じたイベントの開催（H27～） ・駐車場スペース拡大（H27～28） ・レンタサイクルの設置 ・加工品（弁当、菓子等）の品揃えを強化（R2） ・駐車スペースの拡大（大型車5第、普通車26台分）（R3～R4）	・雇用の創出 ⇒正規1名、パート11名（R4末現在） ・安定した売上の実現 ⇒年間販売額2億円以上（R2～）	直販市の販売額 〈目標値（R5）〉 2.15億円 （年間）  〈出発点（R元見込）〉 2.11億円 （年間）	〈R5年度末見込〉 — （年間）  〈直近の実績〉 2.08億円 （年間） 【R4年度末】	B	【評価】 ・季節に応じた地場の生鮮食品を扱い、村内在住の利用者を中心に多くの利用者を獲得することができた。また、定期的に陳列商品の入れ替えを実施し、何度来店しても飽きさせない棚作りができた。  ・駐車スペースを拡大し、駐車場が混雑する課題を解決できた。また、大型バスの受入も可能になり、団体客利用者の増加につながった。  【課題】 ・食品衛生法の改正に伴い、漬物事業者との取引継続が難しい状態にある。既存事業者へ補助制度を周知するとともに、レシピの保存に向けた取組を支援する。	・漬物製造事業者の出品の継続 ・魅力ある店舗づくり ・道の駅さかわ来場者の当該施設への誘導策の検討
				レジ通過人数 〈目標値（R5）〉 19万4千人 （年間）  〈出発点（R元見込）〉 19万1千人 （年間）	〈R5年度末見込〉 — （年間）  〈直近の実績〉 17万5千人 （年間） 【R4年度末】			

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性			
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価				
<p>23「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進</p> <p>《仁淀川地域全域》</p> <p>仁淀川地域の自然、歴史、文化、生活、産業などの多様な地域資源を生かして旅行商品化を進めることで仁淀川ファン拡大を図る。また、全国屈指の水質を誇る仁淀川のブランド化を進め、国内外での知名度を高めることで交流人口の拡大を図り、地域の活性化を目指す。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎(一社)仁淀ブルー観光協議会</li> <li>土佐市</li> <li>いの町</li> <li>仁淀川町</li> <li>佐川町</li> <li>越知町</li> <li>日高村</li> <li>(一社)土佐市観光協会</li> <li>(一社)いの町観光協会</li> <li>仁淀川町観光協会</li> <li>(一社)さかわ観光協会</li> <li>越知町観光協会</li> <li>(一社)日高村観光協会</li> </ul>	観光	<p>&lt;魅力づくりの強化・推進(商品造成)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土佐の観光創生塾(県事業)への参加促進(R2~)</li> <li>滞在型観光の推進(R2~)</li> <li>特産品や食の観光化の推進(R2~)</li> <li>仁淀ブルー体験博の開催(R3~)</li> <li>観光タクシープラン造成・販売(R4)</li> </ul> <p>&lt;プロモーション・情報発信の強化・推進(広報・誘客促進)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>旅行会社へのプロモーション(R2~)</li> <li>メディアやマスコミを活用した情報発信の強化(R2~)</li> <li>ガイドブック「NIYODO BLUE」作成(R2~)</li> <li>SNS等を活用した情報発信の強化(R2~)</li> </ul> <p>&lt;受入・おもてなし体制の整備強化・推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光の担い手確保・育成の強化、情報ネットワーク化推進(R2~)</li> <li>サステナブル・ツーリズムの推進(R4)</li> </ul> <p>&lt;6市町村連携による広域観光の強化・推進(組織体制・連携強化)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>組織体制の強化及び関係機関等との連携強化(R2~)</li> <li>広域観光振興計画(第2期)の策定(R3)</li> <li>マーケティングデータ収集の強化(R4)</li> <li>NHK連続テレビ小説「らんまん」を生かした観光客誘致と周遊促進の取組の推進(R4)</li> </ul> <p>&lt;インバウンド観光の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>魅力づくりの推進(R2)</li> <li>受入に必要な環境や態勢の整備(R2)</li> <li>プロモーションの推進(R2~)</li> </ul> <p>[活用した支援策]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高知県広域観光推進事業費補助金(R2~)</li> <li>高知県広域観光需要喚起等事業費補助金(R3)</li> <li>産業振興アドバイザー招へい(R4)</li> </ul>	<p>&lt;魅力づくりの強化・推進(商品造成)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土佐の観光創生塾の活用や仁淀ブルー体験博の開催により、地域の魅力を生かした商品造成につながった。</li> <li>⇒土佐の観光創生塾商品造成数 R2:7件、R3:10件、R4:14件</li> <li>⇒当日・翌日予約可能なコンテンツ R3:11件、R4:10件</li> <li>観光タクシープランの造成・販売により、域内の周遊促進につながった。</li> <li>⇒R3:33件998,500円</li> <li>⇒R4:97件3,080,456円</li> <li>仁淀ブルースクエアやイベント出展の際に特産品等を販売し、域内の消費に貢献した。</li> <li>⇒R3:204件151,840円</li> <li>⇒R4:511件297,372円</li> </ul> <p>&lt;プロモーション・情報発信の強化・推進(広報・誘客促進)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>旅行会社へのセールス等を実施により、バスツアー等の誘致につながり、域内への旅行者の増につながった。</li> <li>⇒R2:1,985人→R4:3,600人</li> <li>メディアやマスコミ、SNS等を活用した情報発信により域内の認知度向上に貢献した。</li> <li>⇒公式HPの閲覧数 R2:818,966PV</li> <li>⇒R4:1,409,228PV</li> <li>⇒Instagramのフォロワー数 R2:3,171人→R4:124,564人</li> <li>⇒動画の視聴数 R2:8,830回→3,285,729回</li> <li>⇒R3動画制作「究極の仁淀ブルー」「地域プロモーションアワード2022」木川剛志賞受賞</li> </ul> <p>&lt;受入・おもてなし体制の整備強化・推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光ガイドや市町村観光協会等、観光関連事業者への研修の実施により、受入体制を強化した。</li> <li>⇒R2:2回、R3:3回</li> <li>サステナブルな観光商品造成事業(県事業)への参画により、持続可能な観光商品を磨き上げた。</li> <li>⇒R4:1件</li> </ul> <p>&lt;6市町村連携による広域観光の強化・推進(組織体制・連携強化)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総会、理事会、担当課長会、DMOワーキングにより、関連機関等との連携を強化した。</li> <li>デジタルデータ活用事業(県事業)への参画により、データに基づいたマーケティングの実施。</li> <li>「さかわ・おち花*花ループバス」運行事業の受託により、中心エリアの渋滞緩和と周遊促進を図った。</li> <li>⇒停車付近施設入込数 R4.2~5:16,500名</li> <li>⇒R5.2~5:67,608名</li> </ul> <p>&lt;インバウンド観光の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多言語サイト作成により、アフターコロナを見据えた外国人受入れ体制を強化した。</li> <li>訪日グローバルキャンペーン等に対応したコンテンツ造成事業(観光庁事業)への参画により、外国人向けコンテンツを磨き上げた。</li> <li>⇒R2:4件</li> </ul>	<p>主要宿泊施設の宿泊者数</p> <p>&lt;目標値(R5)&gt; 6.6万人 (年間)</p> <p>&lt;出発点(R元)&gt; 6.5万人 (年間)</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; — (年間)</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 7.9万人 (年間) 【R4年度末】</p>	S	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の持つ魅力を生かした造成・磨き上げをした商品をつなげ、観光タクシープランの造成や、OTAを活用して滞在時間を延長する仕組みを作ったことで、コロナ禍にもかかわらず、主要宿泊施設の宿泊者数の増加に貢献した。</li> <li>旅行会社へのセールスの実施により、団体旅行者の誘致が増えた。</li> <li>SNS等を活用して情報発信に努めたことで、域内の認知度向上に貢献した。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マンパワー不足により、事業の取捨選択を余儀なくされており、早急に組織体制を強化する必要がある。</li> <li>コロナ禍の影響により、十分な集客につながらず、主要観光施設の直近の入込数の対R1比は91.9%にとどまるが、観光消費額の対R2比は136.1%と、年々増加しており、一定取組の成果が出ている。引き続き、地域で連携した対策を継続していく必要がある。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>魅力づくりの強化・推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)滞在型観光化の推進</li> <li>(2)特産品や食の観光化の推進</li> </ul> </li> <li>県内外へのプロモーション <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)旅行会社へのプロモーションを強化</li> <li>(2)メディアを活用した情報発信の強化</li> <li>(3)マスコミの活用による情報発信の強化</li> </ul> </li> <li>受入・おもてなし体制の整備強化・推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)観光担い手確保・育成の強化</li> <li>(2)仁淀ブルー観光協議会内の情報ネットワーク化推進</li> <li>(3)サステナブルツーリズムの推進</li> </ul> </li> <li>6市町村連携による広域観光の強化・推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)マーケティングデータ収集の強化</li> <li>(2)観光機関等との連携強化</li> </ul> </li> <li>インバウンド観光の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)訪日外国人観光客のニーズに沿った魅力づくりの推進</li> <li>(2)訪日外国人観光客の受入に必要な環境や体制の整備</li> <li>(3)プロモーションの推進</li> </ul> </li> </ol>			
				<p>主要観光施設の入込数</p> <p>&lt;目標値(R5)&gt; 111.8万人 (年間)</p> <p>&lt;出発点(R元)&gt; 108.6万人 (年間)</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; — (年間)</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 99.8万人 (年間) 【R4年度末】</p>				B		
				<p>観光消費額</p> <p>&lt;目標値(R5)&gt; 2,102百万円 (年間)</p> <p>&lt;出発点(R2)&gt; 1,248百万円 (年間)</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; — (年間)</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 1,698百万円 (年間) 【R4年度末】</p>					C	
				<p>来訪者満足度</p> <p>&lt;目標値(R5)&gt; 98% (年間)</p> <p>&lt;出発点(R2)&gt; 98% (年間)</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; — (年間)</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 95% (年間) 【R4年度末】</p>						B
				<p>リピーター率</p> <p>&lt;目標値(R5)&gt; 50% (年間)</p> <p>&lt;出発点(R2)&gt; 46% (年間)</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; — (年間)</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 47% (年間) 【R4年度末】</p>						



項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
<p>24 土佐市における体験型観光と食観光の推進</p> <p>《土佐市》</p> <p>地域の観光や食の資源を活用し、体験型観光と食観光を組み合わせることによって滞在時間の延長を図り、宿泊を伴う滞在型観光につなげる。また、R5年度に開催する体験博に向けて体験型観光を担う事業者の掘り起こしを行なうことで、土佐市のさらなる魅力発信につなげる。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎（一社）土佐市観光協会</li> <li>土佐市</li> <li>宇佐ホエールウォッチング協会</li> <li>土佐市ドラゴンガイドチーム</li> </ul>	観光	<p>〈地域資源を活用した旅行商品化〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光ガイドチームのスキルアップ</li> <li>産業振興アドバイザー招へい5回（R2）</li> <li>地域資源の掘り起こし及び活用による商品化</li> <li>地域食材を活かした体験型観光の推進</li> </ul> <p>〈関係機関と連携した観光商品開発及びツアー客の受入〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関と連携した観光商品の開発</li> <li>二次交通機関と連携した観光商品の検討</li> </ul>	<p>〈地域資源を活用した旅行商品化〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ガイド台本の整備を通じたウォーキングガイドのスキルアップにつなげるとともに、新規コースの追加等を行い、ガイド内容の充実化を図った</li> <li>⇒観光ガイド受入実施</li> <li>R2：9件74人、R4：8件68人</li> <li>※新型コロナウイルス感染症の影響により受け入れができなかった期間あり</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>土佐市の健康都市宣言と連動させた「健康×観光」をコンセプトとした新たな体験型観光の商品を造成</li> <li>⇒健康都市宣言と連動させた体験型観光の商品を造成</li> <li>R4：1件、R5：1件</li> </ul> <p>〈関係機関と連携した観光商品開発及びツアー客の受入〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仁淀ブルー観光協会及びバスツアー事業者等と連携し、地域の特産品や食を通して地域素材を楽しんでもらえるプログラムを造成</li> <li>⇒R3:6件、R4:3件、R5:既に1件</li> </ul>	<p>体験型・食観光における入込客数</p> <p>〈目標値（R5）〉 5,000人 （年間）</p> <p>〈出発点（H30）〉 2,143人 （年間）</p>	<p>〈R5年度末見込〉 — （年間）</p> <p>〈直近の実績〉 1,743人 （年間） 【R4年度末】</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により、受入が困難な期間もあったことから、目標値の達成には至らなかったものの、既存観光メニューの磨き上げや新たな体験型観光の推進を積極的に行っており、土佐市の魅力的な観光商品造成に大きく寄与している</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ガイドの高齢化が進むとともに、担い手が不足しており、今後の持続的な運営に向けた体制づくりが課題</li> <li>上記と同様の理由により、規模の大きい団体客等の参加申し込みがあっても受入が困難であることから、やむを得ず申し込みを断らざるを得ない実情があるため、顧客を逃がさないための体制や仕組みづくりも必要。</li> <li>土佐市の観光商品の情報発信の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仁淀ブルー体験博へのプログラム参加をきっかけとした担い手の育成及び人材確保の強化</li> <li>関係機関と連携した土佐市全体での受け入れ体制の強化</li> <li>新たな旅行者ニーズに対応する商品開発及び周遊による周辺事業者への波及効果の追求</li> <li>食や観光を通じた移住促進事業の実施</li> </ul>
<p>25 観光交流施設「南風」を核とした新居地区の活性化</p> <p>《土佐市》</p> <p>土佐市の新たな地域振興や情報発信の拠点として整備した観光交流施設「南風」を中心として、地域住民が主体となった、新居地区における交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎特定非営利活動法人新居を元気にする会等</li> <li>土佐市</li> </ul>	観光	<p>〈観光客等の交流人口を増加させるための仕組みづくり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な集客イベントの開催</li> <li>継続的な集客につなげる施設づくり</li> </ul>	<p>〈観光客等の交流人口を増加させるための仕組みづくり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な施設運営に係る協議を実施し、地元農家と連携した地場産品の販売フェアやキッチンカー誘致等を通じた各種イベントの開催につなげ、交流人口拡大に向けた仕組みづくりに取り組んだ</li> <li>⇒イベント及びフェアの実施回数増加</li> <li>R2：3回</li> <li>R3：5回</li> <li>R4：6回</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>直販所の運営等ソフト面の強化に取り組むため、事業戦略策定セミナーに参加（R2：計5回）</li> <li>⇒集客に有効なイベント計画の設定や取り扱い商品の分析、店内レイアウトの変更などを行い運営改善につなげた</li> </ul>	<p>施設来客者数</p> <p>〈目標値（R5）〉 24万人 （年間）</p> <p>〈出発点（H30）〉 19.2万人 （年間）</p>	<p>〈R5年度末見込〉 — （年間）</p> <p>〈直近の実績〉 11.6万人 （年間） 【R4年度末】</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により、来客者数の落ち込みが見られ、目標値の達成には至っていないが、定期的なイベント等については継続して取り組んでおり、開催頻度も増加していることから、観光客の集客に努めており、新居地区の活性化に貢献している。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期的なイベントを開催するための体制づくり</li> <li>継続的な集客につなげるための施設の魅力づくり</li> <li>イベントの開催や施設運営のための新たな人材の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑地公園来園者の施設への誘客を図るための取組強化</li> <li>直販所の品揃えの充実等による魅力的な店舗づくりの実施</li> <li>誘客につながるイベントの主催や季節ごとのフェア、他団体とのイベントの協力等、定期的な誘客策の検討、実施</li> </ul>

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性	
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価		
<p>26 酔鯨酒造株式会社新工場を核とした体験型観光等の推進による地域活性化</p> <p>《土佐市》</p> <p>酔鯨新工場を核とした体験型交流事業を推進することにより、交流人口の拡大につなげ、観光の活性化を図る</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎酔鯨酒造（株）</li> <li>土佐市</li> </ul>	観光	<p>〈見学体験施設等を活用したメニューの提供〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな受け入れメニューの開発</li> <li>併設カフェの新商品開発</li> </ul> <p>〈受入態勢づくり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな体験メニューの開発検討</li> <li>観光客誘致のための関係事業者との連携</li> </ul> <p>〈誘客の推進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>酔鯨の既存顧客をターゲットにしたイベントの開催（ウッドデッキの使用）</li> <li>地域事業者と連携した地域食材を活用したイベントの開催</li> </ul>	<p>〈見学体験等を活用したメニューの提供〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>併設カフェでの新メニューを定期的の開発し、観光客の誘客を図った</li> </ul> <p>⇒施設来客数が増加</p> <p>R2：4,752人 R3：6,026人 R4：7,404人</p> <p>〈受入態勢づくり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>集客に向けた協議を随時実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施を見合わせ</li> </ul> <p>〈誘客の推進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ウッドデッキを活用した酒と食を楽しめるイベントを実施（R3）</li> <li>インフルエンサーによるSNSでの情報発信により新しい客層での認知度向上と誘客を図った（R3、R4）</li> </ul> <p>⇒ショップ売上額の増加</p> <p>R2：1,295万円 R3：1,921万円 R4：2,404万円</p>	施設来客者数	<p>〈目標値（R5）〉</p> <p>7,200人 （年間）</p> <p>〈出発点（R元見込）〉</p> <p>6,000人 （年間）</p>	<p>〈R5年度末見込〉</p> <p>— （年間）</p> <p>〈直近の実績〉</p> <p>7,404人 （年間） 【R4年度末】</p>	A	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により、計画していたイベント等を見合わせるなど、十分な誘客推進は実施できなかったものの、着実に認知度を高めており、R4施設来客数はR5目標を上回って達成している。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>さらなる来客者数増加のための受入態勢の強化</li> <li>二次交通機関と連携した県外観光客の誘客</li> <li>地域と連携した商品開発やイベントの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>酔鯨のブランド価値を活かした体験メニューやイベントを観光客の誘客に繋げていく</li> <li>地域の事業者と連携した地域食材を活用したイベントなどの検討、実施</li> <li>認知度をさらに高めるためのPR強化</li> </ul>

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
27 いの町の地域資源を活かした体験型観光等の推進  《いの町》  仁淀川美しい自然、土佐和紙の歴史、古い町並みなど、いの町の持つ魅力を活かして体験メニューや土産品づくりを進めるとともに、季節ごとの特色あるイベントを開催することで交流人口の拡大を図り、地域の活性化につなげる。  【実施主体】 ・◎（一社）いの町観光協会 ・いの町	観光	<p>〈体験メニューの販売促進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くらうど体験アクティビティ用施設改修(R2)</li> <li>・ライフジャケット、ヘルメット、パドル、カヤック等整備(R2)</li> <li>・グリーン・パークほどのでの新たな体験メニュー(石釜で作る!焼きドーナツ作り、手ぶらでBBQ)の受け入れ開始(R2~)</li> <li>・グリーン・パークほどの HPリニューアル(R3~)</li> <li>・映画「竜とそばかすの姫」公開記念・紙の博物館限定和紙ファイル作り体験(R3)</li> <li>・仁淀ブルー体験博へのプログラム参加(R3)</li> <li>・道の駅土佐和紙芸村くらうど宿泊棟改修に併せた新規メニュー開発・検討</li> <li>産業振興アドバイザー招へい3回(R3)</li> <li>くらうど宿泊棟改修工事(R4~)</li> <li>・グリーン・パーク・ほどのの更なる観光客増に向けた魅力向上による地域活性化</li> <li>産業振興アドバイザー招へい5回(R4)</li> <li>施設内ロジック新設にかかるクラウドファンディング(R4~)</li> <li>・まちあるきガイドくらぶによる「いの町おいしいまちめぐり」マップ作成(R4)</li> </ul> <p>〈イベント等の開催〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いの町紙のこいのぼり、“en~灯りと自然と音楽と~”、仁淀川国際水切り大会、仁淀川神楽と鮎と酒に酔う、Kami祭、かみのひなまつり、銀橋マルシェの開催</li> <li>・仁淀川流域6市町村を自転車で駆け抜けるイベントの開催(高知仁淀ブルーライド)(H30~)</li> <li>・自転車レースを中心にカヌー等を組み合わせたイベントの開催(BIKELORE in NIYODO BLUE)(R2)</li> <li>・商店街でのストリートバスケットボールの開催(まちなかバスケットボールin INOTOWN)(R4)</li> </ul> <p>〈地域産品の販売促進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光協会によるいの町特産品オンラインショップ(R2~)</li> </ul>	<p>〈体験メニューの販売促進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーン・パークほどののHPのリニューアルや、産業振興アドバイザーの導入により魅力向上に向けたメニューづくりに取り組み、観光客増加に繋げることができた。</li> <li>・産業振興アドバイザーの導入により、くらうど宿泊棟改修の具体的な内容、改修後の全体配置や建物の基本計画をまとめ、滞在型観光拠点として魅力ある施設となるよう取り組みを進めた。</li> </ul> <p>⇒体験参加人数の増加 R2:14,489人→R4:22,527人 ⇒体験メニュー売上高の増加 R2:3,207万円→R4:4,349万円 ⇒主要観光施設入込客数の増加 R2:296,598人→R4:391,119人</p> <p>〈イベント等の開催〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・映画「竜とそばかすの姫」のロケ地や仁淀ブルーを巡る貸切タクシープランや「らんまん」に絡めた里山エリアの受入環境整備など観光素材を有効活用することができた。</li> </ul> <p>〈地域産品の販売促進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特産品オンラインショップにおいて、あかうしキャンペーンや手箱きじフェア、送料無料キャンペーンに取り組み、利用拡大に繋がるとともに、れんけいこうち日曜市出店事業に参加し、地域産品の販売促進に繋がった。</li> </ul>	<p>体験参加人数</p> <p>&lt;目標値(R5)&gt; 30,100人 (年間)</p> <p>&lt;出発点(H30)&gt; 27,541人 (年間)</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; — (年間)</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 22,527人 (年間) 【R4年度末】</p>	C	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の体験メニューの磨き上げと新たな体験メニューの開発や滞在型観光施設の魅力向上に取り組むことで、各年度の目標値は達成できなかったが、前年度を上回る数値となっている。</li> <li>・「竜とそばかすの姫」や「らんまん」といった観光素材を有効活用し、新たな体験メニューの開発に取り組み、更なる魅力の発信ができた。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各主要観光施設毎の利用者動向分析及び対応策の検討</li> <li>・天候に左右されない体験メニュー開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験メニューの現状分析。利便性向上に向けた検討</li> <li>・仁淀ブルー体験博を経て造成された体験メニューを通年提供できるメニューに育てていく</li> </ul>
				<p>体験メニュー売上高</p> <p>&lt;目標値(R5)&gt; 5,931万円 (年間)</p> <p>&lt;出発点(H30)&gt; 5,175万円 (年間)</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; — (年間)</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 4,349万円 (年間) 【R4年度末】</p>	C		
				<p>主要観光施設入込客数</p> <p>&lt;目標値(R5)&gt; 415,800人</p> <p>&lt;出発点(H30)&gt; 374,801人</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; — (年間)</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 391,119人 (年間) 【R4年度末】</p>	B		

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
28 いの町本川地区での山岳観光の推進 《いの町》 木の香温泉や山荘しらす、木の根ふれあいの森を拠点とし、他の観光施設や民間企業と連携して、UFOラインと呼ばれる石鎚山系の景観や山岳資源を生かした体験メニューを観光客や山歩き愛好者に提供することで、交流人口の拡大を図る。 【実施主体】 ・◎いの町 ・◎(一社)いの町観光協会	観光	＜観光施設(道の駅木の香温泉、山荘しらす、木の根ふれあいの森)と連携した体験型観光の推進と施設の整備＞ ・山荘しらすの食事メニュー開発に向け産業振興アドバイザーを招へい(R2) ・山荘しらすリニューアル(R3.4) ・山荘しらす内に「山の案内所」開設(R4.5) ・しらす基本構想の策定(R5.2)  ＜新たな体験資源を活用した体験メニューの検討と商品化＞ ・観光資源の掘り起こしと体験メニューの商品化(冬のUFOラインを活用したウォーキングイベント、森林軌道跡ツアー、雪上車ツアーなど) ・インターネット、SNSを活用したPR・情報発信	＜観光施設と連携した体験型観光の推進と施設の整備＞ ・本川地区の山岳観光の拠点となる山荘しらすのリニューアルオープンや、「山の案内所」の開設などの取り組みが進められている。 ・しらす野営場の再整備について検討会での協議や基本構想策定に取り組んだ ⇒しらす基本構想が策定され、しらす周辺の観光振興の方向性が示された。 ⇒事業化のためのR6の予算化に向け自然共生課と協議  ＜新たな体験資源を活用した体験メニューの検討と商品化＞ ・R2年度からUFOラインウォークツアーを開始した ⇒UFOラインウォークツアー参加者が増加 R2:120名(12月) R3:200名(4月)、324名(12月) R4:214名(4月)、446名(12月)	道の駅木の香温泉・山荘しらす・木の根ふれあいの森の利用者数  ＜目標値(R5)＞ 61,500人 (年間)  ＜出発点(H30)＞ 52,705人 (年間)	＜R5年度末見込＞ — (年間)  ＜直近の実績＞ 59,634人 (年間) 【R4年度末】	B	【評価】 ・冬季閉鎖中のUFOラインを活用した新たな体験メニューの商品化など、ソフト面と受け入れ施設のハード面の整備が進められている。 ・冬季のアクティビティでは事故が発生したが、その後緊急対応を含む運行管理マニュアルが策定され、安全な実施に向けた体制が整備された。  【課題】 ・ニーズに合った観光商品の造成や、山の案内人組織のPRの強化。 ・しらす野営場再整備に向けた関係機関との連携体制の構築。	・観光客を惹き付ける施設の魅力づくり(しらす野営場の再整備) ・山岳観光地としてのイメージを確立させるための情報発信の強化 ・地域資源をいかした魅力のある観光商品の造成・販売 ・山の案内人組織『BLU Montino』のPRの強化
29 仁淀川町滞在交流型観光の推進 《仁淀川町》 自然の景観を活かした滞在交流型観光の拠点施設としてキャンプ場やアクティビティ施設を整備を行うとともに、他の観光スポットとの周遊ルートを確認し、滞在交流型観光を推進することで地域の活性化につなげる。 【実施主体】 ・◎仁淀川町 ・◎(株)ビバ沢渡 ・◎仁淀川町観光協会 ・指定管理者	観光	＜キャンプ場の整備と施設運営＞ ・町内におけるキャンプ場及びトイレ等の整備(R2~4) ・指定管理者制度の導入(R5)  ＜岩屋川渓谷を活かした滞在交流型観光施設の整備＞ ・体験型観光アクティビティ事業の検討(R4) ・観光周遊計画の策定 産業振興アドバイザー招へい5回(R4)  ＜関係機関等と連携した効果的な観光情報収集・発信＞ ・町内事業者に対してアンケート調査を実施(R2)	＜キャンプ場の整備と施設運営＞ ・キャンプ場有料化により、町にお金が落ちる仕組みづくりが進んでいる。  ＜岩屋川渓谷を活かした滞在交流型観光施設の整備＞ ・県観光補助金を活用したアクティビティ施設の整備が進められることとなった。(R5.8.20オープン予定)  ＜関係機関等と連携した効果的な観光情報収集・発信＞ ・アンケート結果をもとに、観光協会が「まちゆうで事業」を進めており、町内での連携体制の構築が図られた。	キャンプ場利用者数  ＜目標値(R5(暦年))＞ 1,800人 (年間)  ＜出発点＞ —	＜R5年度末見込＞ — (年間) 【R5(暦年)】  ＜直近の実績＞ —	—	【評価】 ・町内観光事業者の中でも、これまでの「通過型観光」から「滞在交流型観光」への転換の機運が高まっている。  【課題】 ・観光客の受入体制の整備 ・町内観光施設への周遊促進のしくみづくり ・観光ガイドの人員体制の強化 ・アウトドア開散期の誘客促進のしくみづくり	・周遊ルートの形成 ・観光客の受入体制づくり ・情報発信・プロモーションの強化 ・キャンプ場(吾川スカイパーク、星が窪キャンプ場)整備と施設運営(指定管理者制度の導入) ・岩屋川渓谷を活かした滞在交流型観光施設(NIYODO FLY HIGH)整備
				体験施設利用者数  ＜目標値(R5(暦年))＞ 1,000人 (年間)  ＜出発点＞ —	＜R5年度末見込＞ — (年間) 【R5(暦年)】  ＜直近の実績＞ —	—		
				主要観光施設等入込数  ＜目標値(R5)＞ 77,000人 (年間)  ＜出発点(H30)＞ 76,000人 (年間)	＜R5年度末見込＞ — (年間)  ＜直近の実績＞ 66,596人 (年間) 【R4年度末】	B		

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
30 佐川町での歴史と文教を生かしたまちづくりによる観光の推進  《佐川町》  歴史的な町並みの整備を行うとともに、観光資源の効果的な活用により、「歴史と文教のまち・佐川」の魅力を感じられるまちづくりを行政・観光協会・地域が一体となって進める。  【実施主体】 ・◎佐川町 ・◎（一社）さかわ観光協会 ・◎佐川町内の地域づくり団体・個人	観光	<観光資源の利活用、おもてなしの体制づくり> ・牧野富太郎博士生誕160周年記念事業の開催 (R4.4.23~4.24) ・佐川高校生による町歩きガイドの実施 (R4.5.3) ・さかわ・酒蔵ロード劇場の開催 (R4.11.19、4.432人来場) ※3年ぶりの有観客開催 ・NHK連続テレビ小説「らんまん」に向けた「牧野富太郎博士顕彰事業」のキービジュアル、ロゴマークの発表 (R4.9.15) ・NHK連続テレビ小説「らんまん」に向けた町内観光施設「牧野富太郎ふるさと館」等のリニューアル (R4.2.4) ・「佐川の歴史勉強会」(くろがねの会)開催 (R4.5.21~22、延べ23名参加) ・外国人観光客の受入体制強化に向けた英語勉強会(くろがねの会)の実施(毎週火曜日) ・産業振興アドバイザー招へい (R3)  <体験型観光の推進> ・体験型博覧会「わんさかわっしょい体験博」の開催 ・説明会・ワークショップ 15名参加 (R4.9.8) ・体験型博覧会 20プログラム、242名参加 (R5.1.14~2.28)  <青山文庫の施設整備> ・青山文庫(収蔵庫、展示室等)の改修方針の検討 ・NHK連続テレビ小説「らんまん」に向けた施設のリニューアル (R4.2.4) ・青山文庫企画展の開催 春の企画展 (R4.3.12~R4.6.5) ・青山文庫の収蔵品あれこれ~皇室関係資料~ ・志士たちの遺墨 牧野富太郎生誕160周年記念特別展 ・牧野富太郎と佐川(前期) (R4.6.11~9.4) ・牧野富太郎と佐川(後期) (R4.9.10~R5.1.9) ・植物学者・牧野富太郎の歩み (R4.2.4~10.15)	<観光資源の利活用、おもてなしの体制づくり> ・牧野富太郎博士生誕160周年記念事業の開催や、観光資源を活用した取組などにより、佐川町の認知度の向上につながっている。 ・NHK連続テレビ小説「らんまん」の放送に伴う観光客の受け入れのため、関係者間で連携が強まっている。 ・ガイド研修の実施によりガイドのスキルが向上し、多くの観光客の受け入れにつながっている。 ⇒上町地区入込数 R2: 15,954人→R4: 30,644人 ⇒上町まち歩きガイド利用者数 R2: 695人→R4: 4,438人  <体験型観光の推進> ・体験型博覧会「わんさかわっしょい体験博」の開催 説明会・ワークショップ 15名参加 (R4.9.8) 体験型博覧会 20プログラム、242名参加 (R5.1.14~2.28)  <青山文庫の施設整備> ・歴史的価値のある資料を良質な状態で保存し、より多くの人に見て学んでもらえるような施設改修の検討が進んでいる。	上町地区への入込客数  <目標値 (R5)> 40,000人 (年間)  <出発点 (H30)> 31,225人 (年間)	<R5年度末見込> - (年間)  <直近の実績> 30,644人 (年間) 【R4年度末】	C	[評価] ・牧野富太郎博士生誕160周年記念事業の開催や、観光資源を活用した取組などにより、佐川町の認知度の向上につながっている。 ・NHK連続テレビ小説「らんまん」の放送に伴う観光客の受け入れのため、関係者間で連携が強まっている。 ・ガイド研修の実施によりガイドのスキルが向上し、多くの観光客の受け入れにつながっている。 ・歴史的価値のある資料を良質な状態で保存し、より多くの人に見て学んでもらえるような施設改修の検討が進んでいる。  [課題] ・NHK連続テレビ小説「らんまん」放送終了後のリピーターの確保 ・歴史的資源等を活用した販売が生まれる取組の推進 ・青山文庫の改修方針が未確定	・観光資源を活用し、継続した取組の推進(さかわ・酒蔵ロード劇場、わんさかわっしょい体験博等) ・NHK連続テレビ小説「らんまん」放送後の誘客(リピーターの確保)策の検討
				上町まち歩きガイド利用者数  <目標値 (R5)> 5,500人 (年間)  <出発点 (H30)> 4,512人 (年間)	<R5年度末見込> - (年間)  <直近の実績> 4,438人 (年間) 【R4年度末】			

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
<p>31 越知町の総合的な観光振興と地場製品の販売促進</p> <p>「越知町」</p> <p>情報発信機能と物販機能を持った「越知町観光物産館おち駅」を拠点に越知町における観光振興と物産販売体制の強化を図る。また、地域の様々な観光資源を組み合わせた体験型観光のメニューづくりや地場産品等を活用した新商品開発に取り組み、交流人口の拡大と販売促進を図り、地域の活性化に繋げる。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎越知町観光協会</li> <li>◎おち駅物販経営協議会</li> <li>◎越知町</li> <li>JA高知県（仁淀川地区）</li> </ul>	観光	<p>&lt;観光物産館おち駅の利用者拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業振興アドバイザー制度の活用</li> <li>おち駅物販経営協議会の定期開催</li> <li>キャッシュレス決済の導入</li> <li>ふるさと納税を通じた地場産品の情報発信</li> <li>ふるさと納税サイト、返礼品の拡大</li> </ul>	<p>&lt;観光物産館おち駅の利用者拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>おち駅物販経営協議会で経営状況や課題の共有、その課題への対応検討（月1回）</li> <li>ふるさと納税を通じた情報発信</li> <li>ふるさと納税返礼品の拡大（36商品）</li> <li>キャッシュレス（PayPay）決済の導入</li> </ul> <p>⇒おち駅の販売額 R2 1.33億円→R4 1.08億円</p>	<p>おち駅での販売額</p> <p>&lt;目標値（R5）&gt; 1.10億円 （年間）</p> <p>&lt;出発点（H30）&gt; 1.0億円 （年間）</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; 1.16億円 （年間）</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 1.08億円 （年間） 【R4年度末】</p>	A	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさと納税サイト数や返礼品を拡大し、情報発信の強化・充実を図ることで、寄附件数が増加し、越知ブランドの認知度向上につながっている。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域間での競争激化に伴いふるさと納税の取扱関連の売上が減少傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさと納税関連のより魅力のある返礼品の開発</li> </ul>
		<p>&lt;横倉山のさらなる魅力向上&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横倉山自然の森博物館の改修 高知県博覧会受入環境等整備支援事業費補助金 R4：127,013千円</li> <li>OTAを活用した商品販売</li> <li>友の会会員、リピーター獲得に向けた観察会等の実施</li> <li>企画展の実施</li> <li>OTAを活用したトレッキングツアーの販売</li> </ul>	<p>&lt;横倉山のさらなる魅力向上&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>博物館へ地域おこし協力隊（学芸員）の着任</li> <li>博物館のHPを開設し情報発信</li> <li>博物館にて企画展を実施</li> <li>博物館友の会会員の増加とリピーター獲得に向けた観察会等の実施</li> </ul> <p>⇒博物館入館者数 R2 6,187人→R4 9,470人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横倉山トレッキングツアーガイド養成研修会を実施</li> <li>観光協会にてOTAを活用した横倉山トレッキングツアー販売</li> </ul> <p>⇒トレッキングツアー利用者数 R2 82人→R4 156人</p>	<p>横倉山自然の森博物館入館者数</p> <p>&lt;目標値（R5）&gt; 9,700人 （年間）</p> <p>&lt;出発点（H30）&gt; 6,507人 （年間）</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; 15,986人 （年間）</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 9,470人 （年間） 【R4年度末】</p>	S	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な取り組みにより情報発信の強化・充実を図ったことにより、入館者数の増につながっている。</li> <li>着任した地域おこし協力隊による新たな講座の実施を通して、友の会の会員増によりリピーター獲得にもつながっている。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リニューアルしたHPでの効果的な情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPやSNSを使った情報発信をさらに強化</li> <li>博物館内の設備リニューアルの検討・実施</li> </ul>
		<p>&lt;カヌー・ラフティングの利用者拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>OTAを活用した商品販売</li> <li>SNS等を活用した情報発信</li> <li>研修等での活用に向けた企業提案</li> <li>繁忙期のガイド確保に向けた取組</li> <li>滝上町との児童交流での受け入れ</li> <li>高校生の修学旅行での受け入れ</li> </ul>	<p>&lt;カヌー・ラフティングの利用者拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>OTAを活用した商品販売（冬期以外）</li> <li>SNS等を活用した情報発信</li> <li>研修等での活用に向けた企業提案</li> <li>グランピングイベントや修学旅行にてラフティングの受入</li> </ul> <p>⇒カヌー・ラフティング利用者数 R2 1,429人→R4 1,830人</p> <p>⇒企業の研修等での活用実績 R2 0人→R4 30人</p>	<p>カヌー・ラフティング利用者数</p> <p>&lt;目標値（R5）&gt; 2,400人 （年間）</p> <p>&lt;出発点（H30）&gt; 1,694人 （年間）</p>	<p>&lt;R5年度末見込&gt; — （年間）</p> <p>&lt;直近の実績&gt; 1,830人 （年間） 【R4年度末】</p>	C	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>OTAを活用したカヌーやラフティングツアー商品の販売展開により利用者の利便性が高まり、交流人口の拡大につながっている。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>川の冬期活用が難しく、集客が見込めない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNS等を活用した情報発信</li> <li>研修等での活用に向けた企業提案</li> <li>現状の取り組みを継続しつつ、川の冬期活用方法を検討</li> </ul>

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
<p>32 越知町における体験型観光の拠点となるキャンプ場を核とした交流人口の拡大と地域の活性化</p> <p>《越知町》</p> <p>仁淀川でのカヌー・ラフティングや横倉山などの地域資源を活用した体験型観光を束ねる拠点として(株)スノーピーク監修によるキャンプ場を整備・運営し、仁淀ブルーの全国発信と観光客誘致による交流人口の拡大と、地域の活性化を目指す。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎越知町</li> <li>(株)スノーピーク</li> </ul>	観光	<p>＜キャンプ場の運営と誘客促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アウトドアイベントの開催</li> <li>2拠点合同周年祭の開催</li> <li>グランピングイベントの開催</li> <li>雪峰祭の開催等</li> <li>研修等での活用に向けた企業提案</li> <li>SNSを活用した情報発信</li> <li>QRコード決済の導入</li> <li>おち割の開始</li> <li>住箱の計画的な修繕</li> </ul>	<p>＜キャンプ場の運営と誘客促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住箱周辺の環境整備</li> <li>QRコード決済の運用開始</li> <li>研修等での活用に向けた企業提案</li> <li>SNSでのライブ配信やテント等の設営講習会</li> <li>合同周年祭などのイベントの開催</li> </ul> <p>⇒キャンプ場利用者数 R2 8,295人→R4 9,121人 ⇒企業の研修等での活用実績 R2 0人→R4 192人</p>	<p>キャンプ場利用者数</p> <p>＜目標値 (R5)＞ 10,980人 (年間)</p> <p>＜出発点 (H30)＞ 9,526人 (年間)</p>	<p>＜R5年度末見込＞ — (年間)</p> <p>＜直近の実績＞ 9,121人 (年間) 【R4年度末】</p>	C	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャンプ場運営に加え、各種イベントを実施することにより、利用者の満足度が向上するとともに交流人口の拡大にもつながっている。</li> <li>研修等での企業利用により、閑散期の施設稼働率に寄与するとともに、交流人口の拡大にもつながっている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>閑散期等の施設稼働率の向上</li> <li>新規の顧客獲得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修等での活用に向けた企業提案に向け、継続的に取り組む。</li> <li>SNSでのライブ配信や、テント等の設営講習会を継続的に実施することにより、スタッフの顔や人柄を知ってもらい、親しみが持てる施設としての雰囲気づくりを進める。</li> <li>キャンプフィールド前の河原にて清掃イベントの開催</li> <li>グランピングイベントの開催</li> </ul>
		<p>＜地域情報の発信と経済効果の創出＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SNSや広報を活用した情報発信</li> <li>地域と連携したイベントの開催</li> <li>テイクアウトマーケットの開催</li> <li>おち・まち・そとあそびの開催</li> <li>産業振興アドバイザー制度の活用</li> <li>リーフレットの作成、配布</li> <li>地域住民の作成した商品の販売</li> <li>おち割の開始</li> <li>住箱の計画的な修繕</li> </ul>	<p>＜地域情報の発信と経済効果の創出＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2施設を紹介するリーフレットを作成し、県内各地へ配布。愛媛県には、業者を通じてスーパーなどの各地へ備置</li> <li>広報おちやSNS等を活用した情報発信</li> <li>かわの駅にて、対象のマグ、ボトル類を購入した方にオリジナルブレンドコーヒー1杯無料キャンペーンを実施</li> <li>町民作商品の取り扱い開始</li> <li>スタッフ等による宮の前公園清掃活動の実施</li> </ul> <p>⇒宮の前公園センターハウスレジ通過者数 R2 17,883人→R4 19,869人</p>	<p>かわの駅おちレジ通過者数</p> <p>＜目標値 (R5)＞ 34,000人 (年間)</p> <p>＜出発点 (R元見込)＞ 23,000人 (年間)</p>	<p>＜R5年度末見込＞ — (年間)</p> <p>＜直近の実績＞ 19,869人 (年間) 【R4年度末】</p>		D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かわの駅の営業時間を5月から短縮したものの、SNSを活用した情報発信等によって前年と同水準のレジ通過者数となっており、交流人口の拡大につながっている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設認知度のさらなる向上</li> <li>町内への経済波及拡大</li> </ul> <p>(今後の方向性)</p>

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
33 日高村の地域資源を生かした体験型観光等の推進 ≪日高村≫ 仁淀川や猿田洞、日下川調整池等の日高村ならではの自然を生かした体験型観光の推進や、小村神社秋の大祭等の季節ごとの特色あるイベントの実施により、交流人口の拡大を図り、地域の活性化を目指す。 【実施主体】 ・◎（一社）日高村観光協会 ・日高村	観光	<観光情報の発信及び観光事業の推進体制強化> ・日高村観光協会を設立（R元）  <体験型観光等の推進> ・インフラツーリズム魅力増進プロジェクト日下川新規放水路第1回現地協議会の開催（R2） ・日下川の整備に向けた検討（R3～） ・野鳥観察施設「メダカさん家」の回収（R3） ・錦山公園の芝生広場等の整備（R3） ・日下貯水池付近の動植物情報の収集（R4～）  <小村神社及び国宝への観光客数の誘致> ・小村神社秋の大祭の実施（R2～） ・日高メシふえすていばる!!!の開催（R2～） ・小村神社前マルシェの開催（R2～）	<観光情報の発信及び観光事業の推進体制強化> ・村がJR日下駅の所有権を譲り受け、耐震工事並びに観光拠点化に向けた工事を進めている  <体験型観光等の推進> ・新日下川放水路を利用したモニターツアーを実施できた。現在は本格的な教育旅行プランの実施に向け準備を進めている。 ・野鳥観察施設の整備、日下川調整池周辺の動植物情報収集を実施し、日下川調整池フットパスの体験観光プランの磨き上げをおこなった。 ⇒体験参加人数の増加 H30：1,370人→R4：2,319人  <小村神社及び国宝への観光客数の誘致> ・地域事業者が連携した小村神社前マルシェ実行委員会が組織され、小村神社前マルシェが新たに開催された。 ⇒来場者数の増加 R元：2,168人→R4：2,180人	体験参加人数 <目標値（R5）> 2,500人 （年間） <出発点（H30）> 1,370人 （年間）	<R5年度末見込> — （年間） <直近の実績> 2,319人 （年間） 【R4年度末】	B	[評価] ・コロナウイルス感染拡大の影響があったものの、体験参加人数は出発点よりも増加した。既存プランの磨き上げや、新たに新日下川放水路を活用したインフラツーリズムの動きもあり、地域資源を生かした体験型観光の推進を実施できた。  ・コロナ禍において、小村神社周辺イベント来訪者は2,000人未満に落ち込んだものの、R4年度には出発点と同等の数値に回復した。また、この集計対象となっていない小村神社前マルシェがR2年度から継続して開催されていることもあり、着実に小村神社への来訪者数が増加している。  [課題] ・新日下川放水路を活用した高付加価値の体験観光プランを造成し、日高村の地域資源を活用し外貨を稼ぐ仕組みをつくる。	・外国人旅行者の受入整備 ・日高村観光の玄関口を意識したJR日下駅舎の改修 ・新日下川放水路を活用した体験型観光プランの造成
				小村神社周辺イベント来場者数 <目標値（R5）> 2,500人 （年間） <出発点（R元）> 2,168人 （年間）	<R5年度末見込> — （年間） <直近の実績> 2,180人 （年間） 【R4年度末】			
34 日高村能津地区における交流人口の拡大と地域の活性化 ≪日高村≫ 清流仁淀川の観光屋形船や集落活動センターミライエ、精油工場など、能津地区の魅力的な観光拠点づくりを行い、観光客の増加により地域の賑わいづくりや地域の活力の維持・向上を図ることにより地域の活性化につなげる。 【実施主体】 ・◎（株）屋形船仁淀川 ・◎（一社）能津未来 ・◎高知FORESTVISION(株) ・日高村	観光	<観光客の受入態勢の充実> ・ロケットカード事業への参画（R2） ・映画「竜とそばかすの姫」とのタイアップ企画の実施（R3） ・安全管理マニュアル策定事業者として県制度のゴールド認定を取得 ・各実施主体が連携した体験観光プランの造成  <精油を用いた新たな体験観光の拠点整備> ・精油製造施設（高知FORESTVISION(株)）の整備に向けた検討（R4） ・精油製造工場の整備 産業振興推進総合支援事業費補助金 R5：5,496千円  <（一社）能津未来による集落活動センターの運営> ・（一社）能津未来の設立（R2） ・能津集落活動センターのオープン（R3） ・経営改善に向け産業振興アドバイザーを招へい（R3）  <国内外に向けた情報発信> ・インスタグラムによる情報発信開始（R3） ・株屋形船仁淀川ホームページのリニューアル（R4）	<観光客の受入態勢の充実> ・日高村観光協会、屋形船仁淀川、能津集落活動センターミライエの3者が連携し、鮎料理と屋形船遊覧のセットメニューを販売した。 ⇒予定を上回る250食が完売 （翌年度の新たな鮎料理の造成のきっかけになるとともに、「あゆ王国高知振興ビジョン」として将来にわたり河川環境やあゆ資源を持続させる取組の契機となった。）  <精油を用いた新たな体験観光の拠点整備> ⇒新たに精油製造施設が稼働開始（R5.4） 体験観光設備の整備も始まった  <（一社）能津未来による集落活動センターの運営> ・地元婦人部が中心となり営業するランチ事業の開始（R4） ⇒利用者が大きく増加した R3：4,408人 → R4：7,762人  <国内外に向けた情報発信> ・すべての事業実施主体がSNSを通じた情報発信を実施することができた。	屋形船乗船者数 <目標値（R5）> 8,000人 （年間） <出発点（H30）> 6,076人 （年間）	<R5年度見込> — （年間） <直近の実績> 5,083人 （年間） 【R4年度末】	D	[評価] ・屋形船乗船者数はコロナウイルス感染拡大の影響のため、出発点の数値よりも落ち込んだ。一方で、R3年度に対するR4年度の乗船者数は171%となっており、コロナウイルス感染拡大が落ち着いたことに伴う回復傾向が見られる。  ・高知FORESTVISIONが日高村を香りの聖地とすべく工房を建設し、精油製造体験プランの造成に向けた取組を進めている。能津集落活動センターミライエではR4年度からランチ事業を本格開始した。屋形船の遊覧体験以外にも能津地区に滞在できる施設が充実しつつある。  [課題] ・高知空港と台湾を結ぶ定期便の運航に伴い、外国人旅行者の来訪が増加した。外国人受入整備をこれまで以上に取り組む必要がある。  ・各事業者が連携した取組・観光プランを造成し、さらなる交流人口の拡大に取り組む必要がある。	・各事業者が連携した観光プランの造成 ・高知FORESTVISIONの精油販売の販路拡大支援 ・外国人旅行者受入体制の整備
				精油関係事業の販売額 <目標値（R5）> 28百万円 （年間） <出発点> —	<R5年度見込> — （年間） <直近の実績> — （年間） (R5.4稼働開始のため直近実績なし)			